

新宿区エコライフ推進員 活動報告書

(令和4年4月～令和6年3月)



令和5年度施設見学会（ダスキン横浜中央工場）（横浜市）にて

第10期新宿区エコライフ推進協議会

新 宿 区 長
吉 住 健 一 様

第 10 期新宿区エコライフ推進協議会活動報告

「新宿区エコライフ推進員」は、自らが環境に優しいエコライフを実践するとともに、その取組を地域に広める活動を行う区民の会です。平成 16 年に発足し、現在は第 10 期新宿区エコライフ推進員（任期：令和 4 年 4 月～令和 6 年 3 月の 2 年間）が活動を行っています。

第 10 期は、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等が中止されるなどした第 9 期と異なり、令和 5 年度に関してはコロナ禍前の日常が戻りつつあるなかで、協議会やイベント等の様々な活動を少しずつ積極的に行うことができました。

また、令和 5 年度には、4 年ぶりとなる施設見学会を開催し、民間や行政における取組事例を通じて、環境に関する知識をより深めることができました。

新宿区では、令和 3 年 6 月に「ゼロカーボンシティ新宿」を表明しました。ゼロカーボンシティを実現するためには、二酸化炭素の排出量の削減を推進し、具体的な施策を打ち出し、今まで以上に区民・事業者・区がそれぞれの立場を考え、それぞれができる範囲の役割を果たすとともに、連携・協力して、実践していく必要があると思います。

区民の役割として一人ひとりが環境への意識を持ち、事業者・区の立場に応じてできることに取り組み、区民・事業者・区がそれぞれの立場を尊重し活動を広げていくことが大切だと思います。その一助となれるよう「エコライフ推進員」として、何ができるかを考え、自分たちでできることから取り組んで行きたいと思います。

令和 6 年 3 月

第 10 期新宿区エコライフ推進協議会

～ 目 次 ～

◆ 第10期活動内容（令和4年4月1日～令和6年3月31日）

1 エコライフ推進員とは	3
2 第10期エコライフ推進協議会 活動内容	4
3 第10期エコライフ推進協議会 参加イベント	5
4 施設見学会	6
5 各分科会の活動報告	
みどり・生き物分科会	7
地球温暖化を考える分科会	13
ゼロカーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える分科会	20

◆ エコライフ推進員の個々の活動報告(順不同)

【大気汚染問題を考える】環状5－1（明治通り）バイパス完成と歌舞伎町補助72開通で空港リムジンバス乗り入れについて	31
気候変動について知る	33
ささやかな活動	35
生存する為に	36
施設見学会について（ダスキン横浜中央工場及び横浜市鶴見工場）	36
エコライフ推進員の活動を通じて思ったこと、感じたこと	37
咲き乱れる庭の木・街の木「つつじ」に魅せられて	39
ダスキン横浜中央工場、横浜市鶴見工場を見学して	40
エコライフ推進員の活動を通じて感じたこと	41
エコライフを地域や多くの人にどの様にしたら広めて行けるか	42
新宿区の花の「つつじ」をより広く普及させたい	43
環境に関する地域への普及活動	44
10期において、これまで取り組んできたこと	45
新宿区の花「つつじ」区民に広げよう	47
混戦の脱炭素チャレンジと生活の知恵	48
メトロポリタン新宿には意外と緑があった	49
都市緑化における二酸化炭素CO ₂ 吸収量の一考察	51
新宿区測定局測定値(温度)解析	53
活動の総括	55
節度と慎みのあるまち新宿〔つつじの里〕	57
第10期において取り組んできたこと	59
エコライフを地域や多くの人に広めるには	61
エコライフ推進員の活動を通じて感じたこと	62
エコライフを地域や多くの人にどの様にしたら広めて行けるか	63
エコライフ推進員として	
エコライフ推進員の活動を通じて感じたこと	

◆ 資料

1 新宿区エコライフ推進員の活動に関する要綱	64
2 新宿区エコライフ推進協議会運営要領	65
3 第10期新宿区エコライフ推進員名簿	66

～ エコライフ推進員とは ～

1 エコライフ推進員の成り立ち

平成6年に策定された「新宿区環境管理計画」の中の「身近な環境に配慮し、地球環境にもやさしいまち」という目標を推進するため、平成7年度に環境保全推進委員が設けられました。平成16年には、環境保全推進委員に代わるエコライフ推進員の設置が「新宿区環境基本条例（平成9年4月1日施行）」で規定されました。また、「新宿区リサイクル及び一般廃棄物の処理に関する条例」に規定されたリサイクル推進員の活動もエコライフ推進員の活動に統合されました。

2 エコライフ推進員の委嘱

区内在住または在勤・在学の方で環境問題やリサイクル問題に関心があり、地域で啓発活動などができる18歳以上の方が対象です。定員は40名程度で、約半数は公募により募集しています。任期は2年で、区長から委嘱されます。

第1期	： 39名	任期：平成16年7月1日	～平成18年6月30日
第2期	： 35名	任期：平成18年7月1日	～平成20年6月30日
第3期	： 37名	任期：平成20年7月1日	～平成22年6月30日
第4期	： 39名	任期：平成22年7月1日	～平成24年6月30日
第5期	： 38名	任期：平成24年7月1日	～平成26年3月31日
第6期	： 37名	任期：平成26年4月1日	～平成28年3月31日
第7期	： 41名	任期：平成28年4月1日	～平成30年3月31日
第8期	： 36名	任期：平成30年4月1日	～令和2年3月31日
第9期	： 28名	任期：令和2年4月1日	～令和4年3月31日
第10期	： 27名	任期：令和4年4月1日	～令和6年3月31日（委嘱時）

3 エコライフ推進員の活動概要

環境保全活動を地域に広げていくことを目的として、区の環境施策にも協力しながら、さまざまな活動をしてきました。

- (1) エコライフ推進協議会を年4回開催
- (2) 分科会活動を月1回程度実施
- (3) 新宿エコライフまつり等のイベントへの出展
- (4) 施設見学会を年1回実施
- (5) 身近な環境活動の普及・啓発
- (6) 任期満了時に、活動内容を報告書としてまとめ区長へ提出

～第10期エコライフ推進協議会 活動内容～

第10期エコライフ推進協議会 活動内容

	年	月	日	主 な 議 題 等
1	R4	4	22	令和4年度 第1回 ①第10期新宿区エコライフ推進員委嘱について ②エコライフ推進員の活動について ③分科会の決定及び所属分科会について ④協議会役員の選出について
2		7	14	令和4年度 第2回 ①各分科会の活動について ②3R推進キャンペーンについて
3		10	26	令和4年度 第3回 ①各分科会の活動について ②まちの先生見本市！について
4	R5	1	23	令和4年度 第4回 ①各分科会の活動について ②クリアソン新宿 講演 ③事務局からの連絡事項
5		4	18	令和5年度 第1回 ①令和5年度年間活動予定（案）について ②イベント参加について ③施設見学会について ④活動報告書について ⑤各分科会の活動について
6		7	25	令和5年度 第2回 ①エコライフまつりについて ②施設見学会について ③活動報告書の作成について ④3R推進キャンペーン（10月21日）について ⑤第11期新宿区エコライフ推進員の推薦について ⑥各分科会の活動について
7		10	31	令和5年度 第3回 ①活動報告書について ②第11期エコライフ推進員募集について ③各分科会の活動について
8	R6	1	23	令和5年度 第4回 ①各分科会の活動について ②まちの先生見本市！について ③活動報告書の作成について ④エコライフ推進員についてのアンケート ⑤活動報告会について ⑥令和5年度分活動謝礼について
9		3	26	第10期エコライフ推進員活動報告会（予定）

第10期エコライフ推進協議会 参加イベント

	年	月	日	主 な 内 容
1	R4	6		新宿エコライフまつり 会場：エコギャラリー新宿・web 出展：エコライフ推進員の活動紹介パネル展示
2		9	23	3 R 推進キャンペーン 会場：新宿駅西口広場イベントコーナー 出展：エコライフ推進員の活動紹介パネル展示
3		12	24	第20回 まちの先生見本市！ 会場：エコギャラリー新宿 出展：エコライフ推進員の活動紹介パネル展示
4	R5	6	3	新宿エコライフまつり 会場：エコギャラリー新宿 出展：エコライフ推進員の活動紹介パネル展示 押し花を使ったワークショップ
5		10	21	3 R 推進キャンペーン 会場：新宿駅西口広場イベントコーナー 出展：「ゼロカーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える分科会」の活動紹介パネル展示
6		10	26	施設見学会 見学先：①ダスキン横浜中央工場 ②横浜市鶴見工場
7		12	23	第21回 まちの先生見本市！ 会場：新宿中央公園 芝生広場 出展：エコライフ推進員の活動紹介パネル等展示 押し葉を使ったワークショップ

● 新宿エコライフまつりとは

6月の環境月間にちなみ、地域に根ざした環境保全活動を促進し普及させるため、エコギャラリー新宿全体を会場として、区内のNP0、企業等を中心に多数の団体が出展し、来場者に向けた展示や体験事業を行う。

● 3 R 推進キャンペーンとは

毎年10月の「3 R 推進月間」に合わせて、3 R の普及啓発と、新宿区が「エコな暮らし」を推進するまちであることを広く発信するイベントを開催している。

● まちの先生見本市！とは

事業者や環境団体、行政機関などの「まちの先生」が実施する環境学習プログラムを体験できるイベント。「まちの先生」を出前講座として教育現場で活用する等のきっかけづくりとするほか、環境への取組の環を地域へ広めていく。

● 施設見学会とは

環境に関する知識を深め、活動に活かすため、1年に1回、施設見学会を実施。実施にあたっては、推進員で構成する施設見学検討会を開き、見学先を決定。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていたため、令和5年度は4年ぶりの開催となった。

～施設見学会～

令和5年10月26日に、4年ぶりとなる施設見学会が開催されました。開催にあたっては、施設見学検討会を開催し、見学先を検討、以下の2か所を見学先として決めました。

<見学先>

- ① ダスキン横浜中央工場（横浜市鶴見区弁天町3-8）
- ② 横浜市鶴見工場（横浜市鶴見区末広町1-15-1）

当日は9時に区役所を出発し、10時からダスキン横浜中央工場を見学、その後、昼食をいただき、午後は横浜市鶴見工場を見学しました。

ダスキン横浜中央工場は、レンタルを基本とした循環型ビジネスを展開しているほか、廃棄物削減、省資源化といった環境保全に努めていました。

また、横浜市鶴見工場では、ごみを燃やす際の熱を使った発電等の仕組みについて知り、ごみ分別の徹底及び削減の大切さをあらためて学びました。

いずれの工場でも、それぞれの担当者には、多忙のなか対応していただき、わかりやすい説明をしていただきましたこと、感謝申し上げます。



～各分科会の活動報告～

みどり・生き物分科会

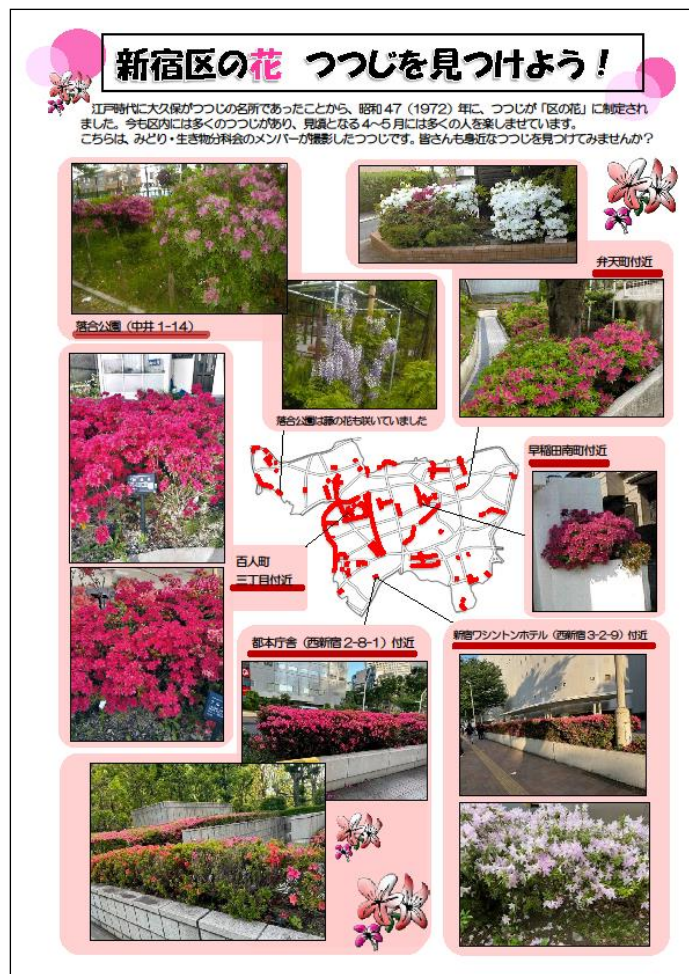
第10期新宿区エコライフ推進協議会みどり・生き物分科会の2年間の活動を報告します。

「新宿」といえば「歌舞伎町」や「高層ビル群」を思い浮かべる方も多いと思いますが、新宿御苑や都立戸山公園、区立おとめ山公園等、区内には多くの公園があり、貴重な自然が残されています。

みどり・生き物分科会では、「新宿」に残る貴重な自然と、そのなかで、環境に適応したくましく生きる生き物がいることを多くの方に知ってもらうため、イベント等の機会を捉えて、展示・ワークショップを行ってきました。

第10期は、新宿区の花であるつつじに着目し、「つつじマップ」を作成しました。作成にあたっては、みどり・生き物分科会のメンバーで実際に区内を歩き、つつじの鑑賞スポットを探して、写真を撮影し、「つつじマップ」としてまとめました。

(つつじマップ)



新宿区の花つつじを有名にしたのは、先人の鉄砲組百人隊です。1603 年、徳川家康は江戸に幕府を開き、江戸を城下町として栄えさせることを目的に大名屋敷を造りました。それから、屋敷や寺、神社の間に町屋が広がり、町人の数も増えていきました。しかし、城下町の外側である大久保地区はほとんどが農村で、開発されていませんでした。

同時に、今の新宿二丁目交差点周辺が江戸の警備上重要な場所であり、そこを警備する鉄砲組百人隊同心に一定の居住地がありませんでした。

徳川家康の家臣である内藤清成は、徳川家康が鷹狩に中野坂上の宝仙寺に来たときにそのことを申し上げ、この大久保の地を定めて鉄砲組百人隊を住まわせました。これが百人町のいわれです。はじめは陣屋形式の居住地でしたが、その後、敵から攻められたとき、敵が入りにくく、守りやすいようにするため、狭い間口で奥行き長い武家屋敷を造って定住することになりました。

屋敷地全域に東西三本の道路を造り、各入口に木戸を設け守っていました。敵の侵入を防ぐため、道幅は三間幅（一間は 1.8m）と狭くしてありました。その真ん中の道路が現在の久保通りで、明治通りからお小滝橋通りまで真っ直ぐ一直線なのは鉄砲組同心の組屋敷の名残です。鉄砲組百人隊は久保通りの両側（現在の百人町 1・2・3 丁目）に住み、平時は江戸城大手三門の警備や、将軍が上野の寛永寺や芝の増上寺に参詣するときの警備に当たっていました。その鉄砲組百人隊が育てたつつじの美しさは江戸中に知れ渡り、見物客でにぎわいました。当時の様子がうかがえる随筆「遊歴雑記（ゆうれきざっき）」（文化 11（1814）年刊）には次のように書かれています。

大久保百人組の組屋敷北の通りに、飯島武右衛門（いいじまぶえもん）という同心がいて、その屋敷にあるつつじが有名でした。家の庭には大小のつつじ 20～30 株が植えてあり、その色や形は実に見事でした。裏庭に回ると、一面つつじが植えられています。木の高さは 8、9 尺か一丈（2.4～3m）、低くても 3 尺から 5、6 尺ほど（0.9～1.8m）で、庭の左右に数千本あり、植えられている庭園の幅は東西 8 間（約 14.7m）南北およそ 2 疋（約 21.8m）という広さです。中にあるのはすべてつつじです。季節としては、立夏より 4、5 日の間がもっとも素晴らしく、花が咲きそろったときは、見ている人の顔の色も紅に染まったようです。諸大名の奥方も集まり、この組屋敷内で一日中酒を飲み、遊んでいました。

家々の垣根にも、すべて琉球つつじが咲いており、東の木戸から西の木戸まで、西側の垣根に咲く花の風情、



垣根越しには燃えるようなつつじの様子が見えました。

他の家々にどんなつつじの大木があっても、飯島武右衛門のものにはかないません。

このように飯島武右衛門のつつじは特に有名となり、江戸中の花の名所を記した「江戸名所花暦（えどめいしよはなごよみ）」にも登場しています。

内職だったつつじの栽培は、すでに江戸中に知れ渡るほど有名になっていたのです。そして、この名所を造り出したのは、ほかならぬ大久保の鉄砲組百人組の武士たちだったのです。天保年間（1830～43 年）が全盛時代で、江戸時代は長く平和が続き、鉄砲組百人組の武士たちもつつじの花を育てていたときが一番平和な時代であったといえます。

江戸時代が終わると、鉄砲組百人組の武士たちもいなくなり、つつじの栽培を行う人がいなくなりました。

明治維新後、大久保つつじは土地の払い下げにより一時期荒廃したといわれています。明治 6（1873）年、東京府知事は、つつじ園を造り、元の姿を戻すように提案し、明治 16（1883）年につつじ園が開園しました。

明治 20（1887）年には南町に共同のつつじ園など次々とつつじ園が開園し、この時期が再興を果たした大久保つつじの最盛期でした。

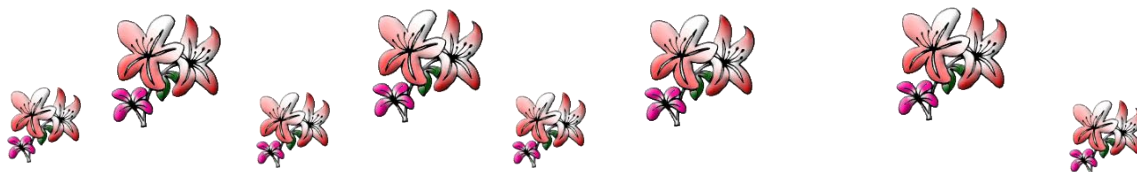
明治 32（1899）年には、明治天皇がつつじの鑑賞に訪れ、「まがねしく 道のひらけてつつじ見に 行く人おほし 大久保の里」という歌を詠まれました。皆中稲荷神社境内入口にはその歌碑があります。

つつじの花の盛りには、顔に紅色が映るといわれたほどにぎわっていたつつじ園も時代の移り変わりとともに姿を変えていきました。それまで土地を無償で借りていたつつじ園が、明治 30 年代になると地代を納めるようになり、やがてその経営が困難となっていきました。その後宅地化が進み、つつじ園も次々と閉園しました。

戦後、地元商店街の植木好きの人たちが皆中稲荷神社の境内で植木の育成品評会を行っているうちに、大久保の歴史に縁のあるつつじ保存会を作ろうということで、「大久保つつじ保存会」が発足し、活動を行うようになりました。昭和 45（1970）年頃になると、地元新宿百人町明るい会商店街の若手で作る「新宿百人町・明るい会二世会」が協賛し、各商店一軒一軒に鉢植えのつつじが飾られるようになりました。

やがて、各商店街保有の鉢数が多くなり過ぎて、商店街につつじの鉢を配付することはなくなりました。

これからも、先人の築いた歴史と文化を受け継ぎ、みどり・生き物分科会は新宿区の花つつじを多くの方に広めていきます。



(参加したイベント)

第10期のうち、1年目の令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主にパネルを展示する形式で、「新宿エコライフまつり」と「まちの先生見本市！」に参加しました。

令和4年度 新宿エコライフまつり



<イベント概要>

- ・開催日 令和4年6月
- ・実施場所 エコギャラリー新宿・web



令和4年度 まちの先生見本市！



<イベント概要>

- ・開催日 令和4年12月24日
- ・実施場所 エコギャラリー新宿



第10期のうち、2年目の令和5年度は、日常が戻りつつあるなかで、イベントもコロナ禍以前の形式で行われ、「新宿エコライフまつり」と「まちの先生見本市！」に参加しました。いずれも、「つつじマップ」のパネルを展示するとともに、身近な自然に気づききっかけ作りとして、ワークショップを行いました。

令和5年度 新宿エコライフまつり



<イベント概要>

- ・開催日 令和5年6月3日
- ・実施場所 エコギャラリー新宿

令和5年度 まちの先生見本市！



<イベント概要>

- ・開催日 令和5年12月23日
- ・実施場所 新宿中央公園 芝生広場



また、令和4年9月には、新宿駅にたぬきが現れるというニュースもありました。大都会新宿でたくましく生きるいきものがいること、また、今あるみどり・自然を守っていくことの大切さを感じることができた2年間でした。

(たぬき出現の際には、こんなパネルも作成しました)

こんなことがありました！



新宿駅に
たぬきが
出現！？

令和4年9月2日夜、新宿駅改札内にたぬきが現れました。
利用客や電車の運行に影響はなく、その後、改札の外に逃げて
行きました。

地球温暖化を考える分科会

1. 第10期の活動テーマについて

当分科会は昨今の地球温暖化の原因の一つである「ヒートアイランド現象」を今期のテーマとし、その原因と対策を考察しました。

【ヒートアイランド現象】とは

都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象。ヒートアイランド現象は年間を通じて生じていますが、特に夏季の気温上昇が都市生活の快適性を低下させるとして問題となっています。

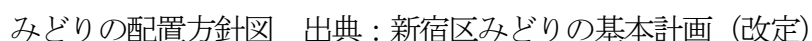
なお、環境省が示しているヒートアイランド対策の基本方針では、ヒートアイランド現象における主な3つの原因を以下のとおり示しています。

原 因		対 策
① 人工排熱の増加	建物の空調機器や自動車、工場、火力発電所等におけるエネルギー消費は最終的に熱として環境中に放出される。 空冷式の空調機器や燃料の燃焼に伴って発生する熱の大部分を占める顕熱は大気を暖め、気温上昇の原因の一つとなる。	⇒ 省エネルギーの推進、交通流対策等の推進、未利用エネルギー等の利用促進により、空調システム、電気機器、燃焼機器、自動車などの人間活動から排出される人工排熱を低減させる。
② 地表面被覆の人工化	地表面被覆のうち、アスファルトやコンクリート等の舗装面や建物の屋根面は、夏季の日中に日射を受けると表面温度が 50～60℃程度にまで達し、大気を加熱するとともに、日中に都市内の舗装面に蓄えられた熱は、夜間の気温低下を妨げる原因となる。 都市化により自然的土地利用が減少し、このような人工被覆地が増加してきている。	⇒ 緑地・水面の減少、建築物や舗装などによって地表面が覆われることによる蒸発散作用の減少や地表面の高温化を防ぐため、地表面被覆の改善を図る。
③ 都市形態の高密度化	中高層の建物の増加などにより都市形態が高密度化したことや連続した緑地等のオープンスペースが減少したことで、風向きによっては地上近くの弱風化、風通しの悪化などにより熱の拡散や換気力を低下させる可能性がある。 また、高密度化した都市内では、天空率が小さく、夜間の放射冷却が阻害されるために、熱が溜まりやすくなる。	⇒ 都市において緑地の保全を図りつつ、 緑地や水面からの風の通り道を確保する 等の観点から水と緑のネットワークの形成を推進する。 また、長期的にはコンパクトで環境負荷の少ない都市の構築を推進する。

そこで「都市形態の高密度化によって引き起こされるヒートアイランド現象」への対策の1つとして挙げられている「緑地や水面からの風の通り道を確保する」方法、いわゆる「風のみち」に着目しました。新宿区のみどりと水の状況を「新宿区みどりの基本計画（改定）」の「みどりの配置方針図」に記載された「風のみち」と「水とみどりの

2. 「風のみち」と「水のみち」の概要

「水のみち」は全て区の周縁部にある川や堀などの水路であり、風の通り道として「七つの都市の森」の全てに接しています。



令和4年11月から令和5年9月の間、下記のスケジュールで推進員が区内にある「風のみち」「水のみち」を実際に現地に行って調査、探索を行い、その調査結果と感想をまとめました。

- (1) R4. 11. 08 おとめ山公園周辺と高田馬場から下落合駅（神田川、水のみち）
- (2) R5. 03. 07 新宿御苑（風のみち）
- (3) R5. 04. 04 市ヶ谷から飯田橋（外堀、水のみち）
- (4) R5. 05. 16 戸山公園・箱根山（風のみち、水のみち）
- (5) R5. 07. 25 下落合駅からエコギャラリー新宿（神田川、水のみち）

4. 歩いてみての感想

(1) おとめ山公園周辺と高田馬場から下落合駅（神田川、水のみち） R4. 11. 08

<概要>

おとめ山公園は落合崖線に残された斜面緑地にあり、平成 26 年には「区民ふれあいの森」として公園が整備されました。



<感想>

- ・道路などの人工的な風と水と緑の中の自然の風は感じ方が違う。
- ・自然の風の方が温暖化対策になるのではないかな。
- ・崖上、崖下、地形との関係性、自然地形では風の流れを感じられた。
- ・水源（川・池）があるところは間違いなく気温が低い。
- ・森や木々のある場所は体感温度が低い。
- ・おとめ山は林が多い、新宿区内では稀有な場所。
- ・神田川の上では風を感じられた。
- ・崖に沿って高低差がある場所は温度が違う。
- ・アスファルトの新目白通りと緑のおとめ山公園は体感温度が違った。
- ・道路、森、道路、温度差によって風が生まれる。

(2) 新宿御苑（風のみち） R5. 03. 07

<概要>

58ha の環境省管理の国民公園で東西に連なる上、中、下の池が中央に配置されており、水路でそれぞれ繋がれ渋谷川の源流となっています。



<感想>

- ・御苑の中は風の冷たさを感じた。
- ・木が鬱蒼としている場所では風を感じなかったが木々の合間には風の流れがあった。
- ・上の池から下の池への水路には流れがあって水がきれいだった。
- ・玉藻池は水流が無くて淀んでいた。
- ・風の流れも同様で水の流れている場所は風が流れ淀みは滞っていた。
- ・水のある場所に風が流れるものと思ったが遮るものがあると風は生まれなかった。

- ・環状五号線(明治通り)も含め、風のみちを作るのであれば、水による温度差、遮蔽がない事が大事。
- ・公園の中央は南から北へ風が流れていた。中央に風が通しやすかったのは、アースダイバーマップからもそもそもの地形で高低差もあり、遮蔽物もないため風の流れがあったのでは。
- ・御苑の中一つにしても場所によって温度差、風の流れが違った。空間、高低差によって風の生まれ方も違った。
- ・御苑の地図で、森・芝・砂利を色分けしているが、芝(平地・空間)や池(川)には風があり、砂利(コンクリート)では風もなく、空気も重く暑く感じ、森(日陰)は涼しくあった。まさにまちづくりと同じ。

(3) 市ヶ谷から飯田橋(外濠、水のみち) R5. 04. 04

〈概要〉

飯田橋駅から四谷駅までかつての江戸城外堀が残されています。濠の千代田区側には遊歩道上に外濠公園が整備されています。



〈感想〉

- ・市ヶ谷駅から飯田橋まで北上、千代田区側と新宿区側を半分ずつ歩いた。
- ・千代田区側は新宿区側に比べ濠が高い。
- ・4月でもあり散策時はまだサクラが咲いていたが、濠の左右によってサクラの咲き方に違いがあった。
- ・千代田区側は新宿区側よりも高台にあり、サクラはすでに散りかけていた。逆に新宿区側はお濠の土手に咲き、水場の側でサクラは今も咲いていた。
- ・千代田区側は高いビルが建っているためか午前中日当たりは悪かった、新宿区側の斜面は日当たりが良かった。
- ・新宿区側は高台に比べ川に近いせいか体感温度が低く感じた。
- ・橋では川の中央付近は風が吹いていた。また温度も低かった。
- ・サクラの咲き方について差があった。日当たりか、気温か、樹種、樹齡の違いなども考えられる。
- ・神楽坂の街中や大久保通りでは、風は感じなかった。一方、外堀は谷間地形であり、水辺、緑、平地には風が発生する条件が揃っている。

(4) 戸山公園・箱根山（風のみち、水のみち） R5. 05. 16

〈概要〉

戸山公園の箱根山は、江戸時代尾張藩徳川家の下屋敷として池を掘った残土を積み上げ固めて造成した築山です。



〈感想〉

- ・箱根山（頂上 44.6m）山頂は強い日差しもあって体感的に暑く感じた。
- ・公園内、木陰が多いと涼しく感じる。
- ・おとめ山と比べ風通しは悪い感じがした。
- ・今までの街歩きの中で一番風通しいが悪い感じがした。
- ・戸山公園自体、団地やビル、病院など高層の建物が周りにあるため風の流れが良くないのか、今までの場所と違って水場がないのも影響あるのか。
- ・戸山公園は明治通りで分断されているが、明治通りのような大通りが風の道としては機能している。

(5) 下落合駅からエコギャラリー新宿（神田川、水のみち） R5. 07. 25

〈概要〉

川を挟んで中野区との境で両岸に緑に囲まれた快適な遊歩道が整備されています。



〈感想〉

- ・遊歩道が手入れ良く整備されていて環境が良い。
- ・中野区側と比べて新宿区側の方が周囲の環境が優れている。
- ・緑があるせいで遊歩道が乾燥していない。
- ・エコロジカルな環境が整備されている
- ・歩道沿いに小さな公園がありベンチが置かれどこでも休憩ができる。
- ・緑も多く、納涼のための人工の水路がつくられている場所もあった。
- ・深い濠、川、水があることによってやはり涼しく感じた。
- ・川には橋が結構の数あった、川から歩道への風の流れを作っている。

(6) 江戸川橋から高田馬場（神田川、水のみち） R5. 09. 05

〈概要〉

神田川は水害が頻繁に発生し江戸時代から現代に至るまで治水の努力が続けられていてコンクリートで両岸を固められて開渠となっています。



〈感想〉

- ・護岸緑化のために植えられているヘデラが高田橋付近でよく育っていた。緑化による清涼効果もあるため神田川全体に波及するとよい。
- ・川にごみがほとんど見られなかった。神田川の戸塚特出の脇では時期によっては川遊びで川を解放するなどしている。川の水そのものがきれいになってきている。
- ・当日の気温 36 度、待ち合わせ時は日陰にいたにも関わらず非常に暑く、汗もかいた。実際に街歩きを開始し川沿い、日陰を歩くと風が吹いていて涼しく、気温も低く感じた。みどりと水が外気を低下させる効果がある。
- ・川沿いの風は涼しく感じる。今まで数回街歩きを行ってきたが、今日の場所が一番涼しく感じた。
- ・川から離れると暑かったのでやはり水の道の効果はあるのかと思われる。椿山荘の周辺が涼しく感じた。
- ・今回の散策でシジュウカラ、カルガモ、コサギなど 6 種の野鳥が見られた。

5. 結び

新宿区内各所をブラタモリのように実際に探索し「風のみち」「水のみち」を推進員の肌で感じ・調査した結果、各所の感想のように「風のみち」「水のみち」はヒートアイランド現象の緩和に役割を果たしていることが実感できました。

新宿区には七つの都市の森に代表される「緑」がたくさんあり、川の水が澄んでいるところでは魚が棲み、水辺には「緑」も豊富、丁寧に維持管理されていてとてもきれいであり、実際に歩いてみて、新宿区の都市開発計画は非常によく考えられて作られているものだと感心しました。

ただ、区は都市計画に基づいて道路や河川を更新している一方、民有地では、各々が自分の理想のもとに建物を更新しているため、都市整備によってせっかく作られた「風のみち」が阻害・分断されているのが現状の問題点ではないかと感じました。残念ながら、現状の法体制の下ではすべての人々が満足できる有効な解決策は浮かびません。

また「緑」はほとんど全て区のエリアの周縁部にあり隣接する他区のエリアに繋がっているということで、「緑」の環境問題を考える時には地域単独で考えるのではなく、

地域を超えた連携の中で考えなければならないと感じました。

今後のヒートアイランド対策、そして地球温暖化対策を考えるうえで、また区が掲げている「ゼロカーボンシティ」の達成という点から見ても、現在の「風のみち」を寸断することなく有効活用し都市開発を行うこと、なにより民・官が一体となって計画・実行してまちづくりを行っていくことが大事だと感じました。

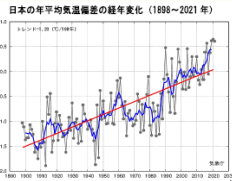
令和5年12月23日（土）まちの先生見本市！にて展示したパネル

地球温暖化について考えよう！

1. 進む気温上昇

世界的に平均気温が、ここ100年で約0.7℃上昇していると言われていますが、これは地球温暖化が主な原因と考えられています。また、東京や名古屋など、日本の大都市の平均気温は、この100年あたりで2〜3℃近く上昇しているとのことです。

また、大都市においては、地球温暖化による気温上昇に加えて、ヒートアイランド現象がもたらす気温上昇により急速に都市の温暖化が進んでいると考えられています。

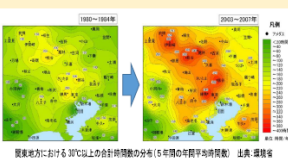


総線（黒）：各年の平均気温の基準値からの偏差
太線（青）：偏差の5年移動平均値
直線（赤）：長期変化傾向
基準値は1991〜2020年の30年平均値。出典：気象庁
<https://www.data.jma.go.jp/god/inf/a/tem/gp/gp.html>

2. ヒートアイランド現象

ヒートアイランド現象とは、都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象です。ヒートアイランド現象は年間を通して生じていますが、特に夏季の気温上昇が都市生活の快適性を低下させるとして問題となっています。

東京周辺で30℃以上となる時間数は、1980年代前半には、年間200時間程度でしたが、最近では20年前の約2倍になり、その範囲も郊外へ広がっています。



都市部はビルも多く熱が溜まりやすい

東京周辺における30℃以上の合計時間数の分布（5年間の年平均時間数）出典：気象庁

3. 地球温暖化を見据えたまちづくり



新宿区はH30.2月に策定された「新宿区みどりの基本計画」に基づいて、**風・水・みどりを取り入れたまちづくり**を行っています。

①「水とみどりの環」	②「七つの都市の森」	③「風のみちみどりの庭園」
本区の外周に沿った神田川、駒込川や外濠の水辺や、連続する外濠の緑地、明治神宮外苑、新宿御苑のみどりを「水とみどりの環（わ）」と位置づけ、水に親しめる空間や自然を感じることでできる空間。さらに、地域の人が訪れ続ける空間を形成します。	新宿中央公園周辺、戸山公園周辺、後合緑地、早稲田大学周辺、外濠周辺、明治神宮外苑周辺、新宿御苑周辺のまとまったみどりを「七つの都市の森」と位置づけ、みどりの保全と拡充を進め、住む人、働く人、訪れる人などが豊かなみどりを感しながらやすらぐことができる空間を形成します。	明治通りや新宿通りから中央通りを「風のみち」と位置づけ、緑地のある街路樹の整備や、沿道建築物の緑化をすすめます。そうしたみどりと身近な地域のみどりをつなげ、「水とみどりの環」や「七つの都市の森」とを結びさわやかな風を導く、暮らしがにぎやかになり、みどり豊かな都市空間を形成します。

ヒートアイランドを防ぐには、省エネに心がけ、熱を出さない事が大切です。また、溜った熱を効率的にどう排出するか？が重要になります。風や水の通り道にはまさに溜った熱を流し流がします。「地球温暖化を考える分科会」では、新宿区内の河川や公園を実際に散策し、「風のみち」「水のみち」を推進員の目や目で体験し、風と水と緑の関係を地球温暖化の観点から調査をおこないました。

風のみち・水のみち 散策マップ

令和4年11月〜令和5年9月まで、実際に推進員が新宿区内の「風のみち」「水のみち」を調査・散策し、見て感じたものをまとめました。

①令和4年11月8日 おとめ山散策



- おとめ山は林が多く、新宿区内では稀有な場所。
- 崖上、崖下、地形との関係性、自然地形では風の流れを感じられた。
- 温度差があるとそこには風が吹き、森や木々のある場所は体感温度も低く感じた。

②令和5年3月7日 新宿御苑散策



- 御苑の地図で、森・芝・砂利を色分けしているが、芝（平地・空間）や池（凹）には風があり、砂利（コンクリート）では風もなく、空気も重く感じ、森（日陰）は涼しくあった。園内はまさにまちづくりと同じだった。

③令和5年4月4日 市ヶ谷外濠散策



- 4月でもあり散策時はまだサクラが咲いていたが、濠の左右によってサクラの咲き方に違いがあった。
- 千代田区側は高いビルが建っているため午前中当たりは暑かった。新宿区側の斜面は日当たりが良かった。

④令和5年5月16日 戸山公園・箱根山散策



- 箱根山（頂上44.0m）に登って、当日は白雲もあって体感的に暑く感じた。
- 戸山公園自体、団地やビル、病院など建物の建ち並ぶところにあるため風の流れが良くないのか、多摩川の場所と違って水邊がないのも影響あるのか、おとめ山と比べ風通しは悪い感じがした。

⑤令和5年7月25日 神田川散策



- 緑も多く、遊歩道にも水が蓄えられていた。水を流す設備があったが浴衣水再生センターが近いからそこからの水だろうか。
- 快適な散策道。今までに比べて環境整備が良い。新宿区側の遊歩道は一日中散歩道として使われているように感じた。
- 緑があるせいで遊歩道が乾燥していない。エコ設備が整備されている。

⑥令和5年9月5日 神田川散策



- 護岸緑化のために植えられているヘデラが葉面付着でよく育っていた。緑化による清浄効果もあるため神田川全体に波及するのかもしれない。
- 本日の気温36度、待ち合わせ時は日陰にいたにも関わらず非常に暑く、汗もかいた。実際に街歩きを始める川沿いの日陰を歩くと風が吹いて、涼しく、気温も低く感じた。みどりと水が外気を低下させる効果を感じた。

「ゼロカーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える」分科会

「ゼロカーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える」分科会では、新宿区一般廃棄物処理基本計画を踏まえ、「ごみの発生自体を抑え、資源循環型社会を目指す。環境への負荷を抑え、効果的に事業を実施する。」という考え方にに基づき、以下のとおり、考察・活動しました。

現状から見た課題

3Rの一層の推進

区民一人 1日あたりの区収集ごみ量は減少していますが、減少量は鈍化傾向にあります。計画策定後の国や都の動向などを踏まえ、特に下記3点から3Rをより一層推進していく必要があります。

① 食品ロスの削減

食品ロス削減推進計画を策定し、これまでの取り組みを一層推進していく必要があります。



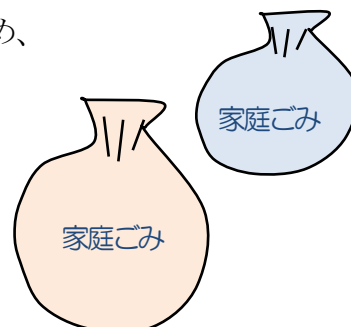
② プラスチックごみの削減・資源化

使い捨てプラスチックをできるだけ使わないライフスタイル・事業活動への転換を推進するとともに、現在清掃工場で焼却しているプラスチック製品についても、分別回収・資源化を図る必要があります。



③ 家庭ごみの分別の徹底

燃やすごみ、金属・陶器・ガラスごみともに、資源物混入割合は減少していますが、更なるゴミ減量・資源化の推進のため、より一層、適正な分別を徹底する必要があります。



発生抑制(リデュース)や再使用(リユース)によりごみの発生自体を抑えます。また、発生したごみは再利用(リサイクル)することで、資源を無駄にしない循環型社会を実現します。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ① 食品ロスの削減の推進 | ⑤ 地域で活躍する人材の育成 |
| ② プラスチックごみ等の発生抑制
(リデュース) | ⑥ 区による資源回収の充実 |
| ③ 不用品再使用(リユース)の促進 | ⑦ 地域主体の資源集団回収の促進 |
| ④ 区民・事業者・区の連携 | ⑧ ごみの適正な分別と排出の徹底 |

目標達成に向けた行動例

食品ロスを減らす	ミニトマト 20 g
使わないものは断る	レジ袋(2枚) 14 g カトラリー類 各 1 g
資源として分別排出する	チラシ(3枚) 18 g



計画目標

区民一人1日あたりの区収集ごみ量

令和3年度 552 g 削減量 108 g 【約19%】(単年度18g削減)
令和9年度 444 g

ごみの総排出量

令和3年度 125,846t 削減量 1,1万t 【約9%】
令和9年度 114,207t

新宿区では、区民と事業者などが一体となって連携・協力をしながら、2050年までに、区のCO₂排出量の実質0を目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組んでいます。分科会では、「ゼロカーボンシティの実現に向けて、ごみ減量とリサイクルを考える」をテーマとして活動を進めていくことにしました。私達を取り巻く地域のごみの現状と課題を取り上げ、ごみの発生を抑え、資源循環型社会を目指していくことにしました。環境への負荷を抑え、効果的に、効率的に地域への普及と啓発をしやすいように3枚のパネルを作成しました。

〈作成したパネル〉

- ① 「環境にやさしいこと」未来に向けて！私たちにできること
- ② カーボンシティの実現に向けてごみ減量とリサイクルを考える
- ③ ゼロカーボンシティの実現に向けて3Rから考えるエコな暮らし(資源循環型社会)
ごみの減量と資源の有効活用のキーワード「3つのR」

「環境にやさしいこと」 | 未来に向けて! 私たちにできること

令和3年6月5日、吉住健一新宿区長が「新宿区ゼロカーボンシティ」の実現に向けての取り組みを表明されました。(※)

私たちを取り巻く自然環境は、未曾有の災害が多発しており、これらの要因は、人間活動に伴う二酸化炭素増加によるものであると言われています。地球温暖化を引き起こす二酸化炭素を減らすために、世界中で「脱炭素化」や、SDGs持続可能な開発目標17項目についての取り組みが広がっています。このまま何もしないでいると地球が持たなくなってしまうからだと言います。温暖化対策は個人では、一度にたくさんできないため、「できること」から取り組んでいきたい。水や電気を大切に使う、ごみの削減の工夫、資源の有効活用、緑の保全など、私たちにできることはたくさんあります。ゼロカーボンシティの実現に向けて、できることから始めましょう。

(※)区は区民・事業者等と一体となって連携・協力しながら、2050年までに区のCO2排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」実現に向けて取り組むことを、ここに広く表明します。

カーボンシティの実現に向けて ごみ減量とリサイクルを考える



分科会

長引くコロナ禍にあり、「日常生活」が今も取り戻せない状況です。ごみ集積所には、以前から比べると「ごみ袋」が多くなりました。包装容器、ペットボトル、缶など家庭から出る量は、25～30%増えているとの報告もあり、家庭ごみの減量は、差し迫った大きな課題です。区が示している令和9年度までに区民1人1日当たりのごみ量の減量484gを目指していくとしています。カーボンシティの実現に向けてごみ減量とリサイクルの対策に取り組んでいきます。

新宿区 令和3年度 「ごみの収集・資源の回収状況」 (新宿区ホームページ参照)

令和3年度 区民1人1日当りに換算した区が収集したごみの量 552g

〈ごみの内訳〉

燃やすごみ(可燃) 64,498t 金属・陶器・ガラス(不燃) 1,541t

粗大ごみ 2,723t ごみの量 計 68,762t

令和9年度までに 区民1人1日当たりごみの量 484gを目指す



家庭から出るごみの抑制

食品ロス

食品廃棄物年間2,550万トン食品ロス612万トン一人当たり(約132g)

茶碗約1杯分の食べ物を毎日捨てている。

対策例① 生ごみを減らしましょう。→ごみの減量化・重量が減ります。
計画的に買い物を 料理は作り過ぎない 材料を無駄にせず、
食べ残しをしない 生ごみの水切りを十分する



衣類ロス

まだ着ることが出来る衣服が廃棄処分される「衣服ロス」新たな環境問題になっています。連日トラック130台分もの衣類が焼却処分されています。一方海外には、このように処分される衣類を重宝して、使いたいと思っている多くの人たちがいます。

対策例② 世界に必要としている人に届けましょう!

もったいない

すてないで! びん、缶、ペットボトル、容器包装プラスチックは、資源になります。

対策例③ 汚れを落として、それぞれ中身が見えるように区分けをして資源回収日に出しましょう



新宿区の資源・ごみの分け方・出し方を簡単に調べることが出来ます。

資源・ごみ 分別アプリを配信しています。さんあーる 検索

問合せ先 新宿清掃事務所事業係 TEL 3950-2962 FAX 3950-2932

ゼロカーボンシティの実現に向けて

3Rから考えるエコな暮らし

資源循環型社会

ごみの減量と資源の有効活用のキーワード「3つのR」

- 1 Reduce リデュース**

ごみになるものを減らす
使い捨てになるものは買わない。
過剰包装は断る。買い物にはマイバックを使用。
必要な量だけ購入する。
- 2 Reuse リユース**

ものを工夫して繰り返し使う
こわれたものは修理して使う。容器は中身を入れ替えて使う。
リサイクルショップやフリーマーケットを利用する。
- 3 Recycle リサイクル**

再生利用する
資源ごみきちんと分別して出す。
再生品を買う・使う。

現在の分別の決まりを正しく守れば、ごみ減量と資源の有効活用につながります。
「ポイ捨ては厳禁」プラスチックごみ、マスクのポイ捨ては、海洋ごみの最大発生源。

2021年 新宿区 家庭用 資源・ごみの分け方・出し方

資源

週一回
回収

古紙

新聞、本、雑誌、部活、本、ノート、電子帳、チラシ、包装紙、新聞、トイレットペーパーの芯など

新聞 (4つ折・A4サイズ)

マイバック
洗濯機にもでしぼって、お捨てください。

ダンボール

容器包装プラスチック

※食品を入れたり【容器】、包んでいる【包装】プラスチックのことです。

ポリ袋・ラップ・フィルム

カップ

ボトル
(ペットボトルは除く)

トレイ・パック

発泡スチロール・発泡ネット・気泡緩衝材(プチプチ)

※汚れが落ちないものは汚すところへお捨てください。
※汚れた容器は洗剤を洗い流さずお捨てください。
※容器包装プラスチックは入れないでください。

びん

飲料、食品用、化粧品用、飲み薬用

※水で濯ぐすいください。

缶

飲料、食品用のアルミ缶、スチール缶

※水で濯ぐすいください。

ペットボトル

※キャップとラベルは容器包装プラスチックへ

※水で濯ぐすいください。

スプレー缶・カセットボンベ・乾電池

※コンテナ・ネットにバラで入れてお捨てください。

マンガン乾電池、アルカリ乾電池、リチウム一次電池

※水で濯ぐすいください。

※資源回収容器(コンテナ・ネット)を貸し付けている集合住宅等は、コンテナ・ネットにバラで入れてお捨てください。

2021年新宿区家庭用配布資料より抜粋 新宿区 保存版 令和2年発行 家庭からの資源・ごみの正しい分け方・出し方 詳しく掲載しています。

参加したイベント

3R推進キャンペーン

令和4年9月23日(金・祝)～24日(土) 会場：新宿駅西口広場イベントコーナー

上記の①・②・③のパネルを掲示し、「新宿区家庭用資源・ごみの分け方・出し方」から資源として区別しにくい紛らわしいもの、回収できないものについて実物を展示して、より分かりやすい分別の方法を周知するとともに啓発を行いました。

新宿区資源・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」についてのチラシを配布しました。

当分科会は、通りに面していたブースの設営でしたが、コロナ禍であったことが要因とみられ全体的に会場に立ち寄る人が少ない状況でした。一方、興味や関心を持って立ち寄った人もいたため、出展したことに意味があったと思います。



令和5年10月21日(土) 会場：新宿駅西口広場イベントコーナー

テーマに合う内容を工夫して、アピールしたい内容を盛り込んだ、パネルを新たに作成し、会場に掲示し、伝え広めました。

① 環境に優しい第一歩 身近なことからはじめよう！

食品ロスをなくすために… 大事な栄養素捨てちゃだめ！家庭から出る「生ごみ」の堆肥化

衣類ロス 必要としている人に届けましょう

② 台所食物廃材の堆肥化 材料 結果 方法

③ 食品ロスをなくそう 環境活動に積極的に参加しよう！

会場は広く、多くの人たちを予想していたが、コロナ禍の影響は大きく来場者が少なかったのが残念です。

新宿駅西口広場イベントコーナーで行うためには、実施する時期・会場の設営方法・内容などを今後検討すべきだと感じました。

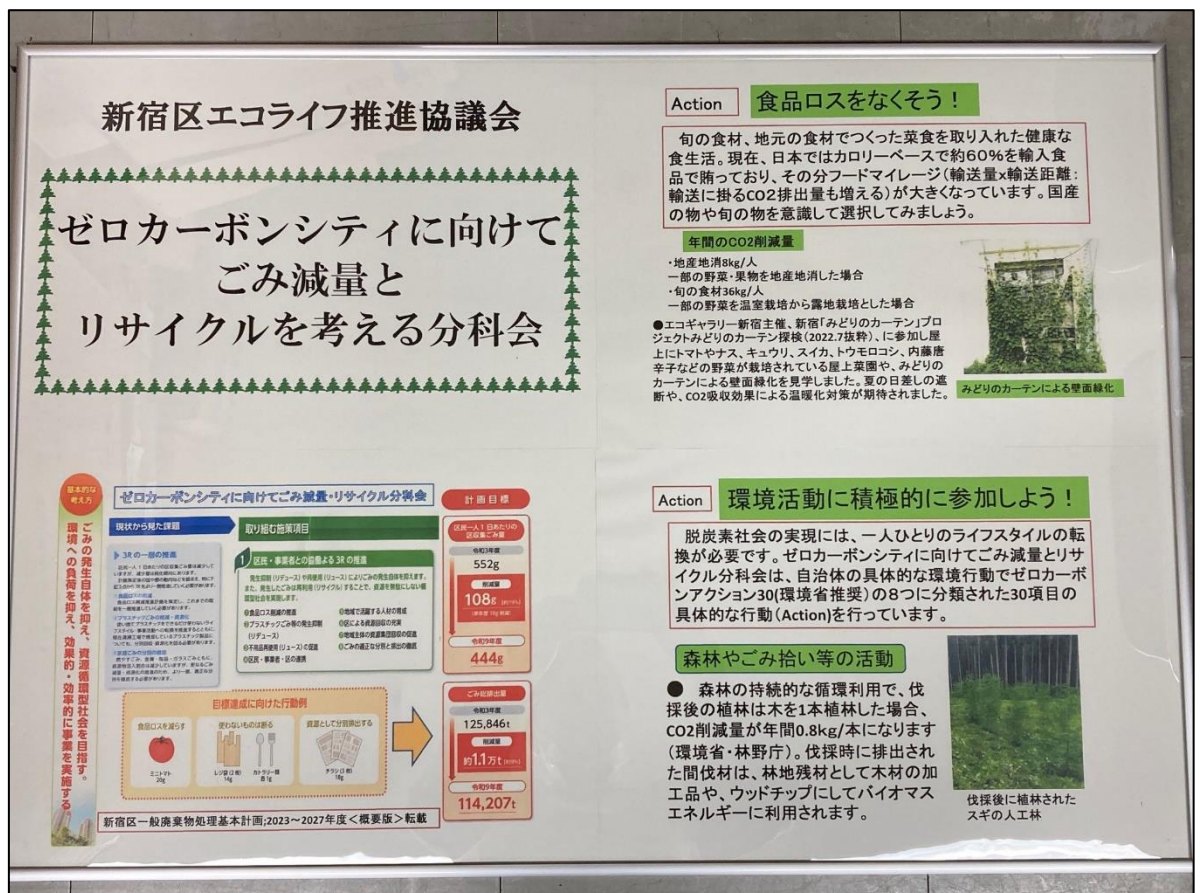
<作成したパネル1>



<作成したパネル2>



<作成したパネル3>



新宿エコライフまつり

令和5年6月3日(土) 会場：エコギャラリー新宿

コロナ禍で実施されなかった新宿エコライフまつりは、CO₂排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ新宿」の実現に向けて、4年ぶりに通常開催されました。当分科会では、カーボンシティに向けて3Rからエコな暮らしを考える(資源循環型社会)をテーマに、日常生活から出る家庭ごみの分別の仕方や、分別が紛らわしい物について実物を展示し、正しい分別の仕方の普及と啓発を行いました。

令和4年度にコロナ禍で開催された3R推進キャンペーンにおいて、来場者が少なく伝えきれなかったため、同じ内容で出展をしました。会場は親しみやすいエコギャラリー新宿ということもあってか、家族連れが多いようでした。出展ブースでは、ごみ問題について説明を聞いたり、質問をしたりしている様子や、家庭で取り組んでいるごみ対策についても、話を聞くことができました。



まちの先生見本市！

第20回 令和4年12月24日(土) 会場：エコギャラリー新宿

毎年新宿区立小学校を巡回して行っていた「まちの先生見本市！」は、SDGs フェス 2022 のイベントに組み込まれ、新宿中央公園内と新宿エコギャラリー新宿に会場を移し開催されました。コロナ禍であったため、当分科会は、中央公園ブースが集まる芝生広場から離れたエコギャラリー新宿の室内に、パネルを掲示しました。来場者は惜しくも少なく、ごみ減量とリサイクルの問題を多くの人に伝え広めることができず、残念でした。

第21回 令和5年12月23日(土) 会場：新宿中央公園 芝生広場

SDGs フェス 2023 のイベントが昨年に続き行われました。出展団体として、エコライフ推進協議会が数多くの団体とともに第21回「まちの先生見本市！」に参加しました。分科会は、昨年実施のまちの先生見本市・今年度の3R推進キャンペーンで使用した3枚のパネルを掲示し、食品ロスについて・その削減方法堆肥づくり・環境活動に積極的に参加しようと呼びかけました。この日は、家族連れが多く、ワークショップが人気でした。広々とした会場は、当分科会の出展ブースとしてはあまり適していなかったと感じました。

＜伝え広めたかった事＞ごみの削減の方法

- ① リボベジのすすめ ⇒ 豆苗・人参・アボカドの水根栽培の仕方を提示するとともに、使用するペットボトルや、プラスチック容器の皿は、再利用できること。
- ② 生ごみの堆肥化 ⇒ ごみの削減になることと同時に、花や緑の育成や地産地消の野菜の収穫が期待できること。
- ③ 包装容器プラスチックは、小さくまとめるとごみの量の削減になること。



施設見学会

令和5年10月26日(木) 見学先：ダスキン横浜中央工場 横浜市鶴見工場

毎年実施していた施設見学は、コロナ禍で実施していませんでしたが、今年度は念願かなって、2つの工場見学をすることが出来ました。

分科会としては、「ゼロカーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える」をテーマに掲げて活動を進めてきたため、この工場見学は大変有意義だったと思います。見学で得たことを実生活に取り入れるとともに、区民にも伝え広めていくことが必要と感じました。

詳細：参加者の個人の報告書参照

まとめと今後の課題

新宿区では、区民と事業者が一体となって連携・協力をしながら、2050年までに、区のCO₂排出量実質0を目指す「ゼロカーボンシティ」に向け取り組んでいます。分科会では、「ゼロカーボンシティに向けて、ごみの減量とリサイクルを考える」をテーマに活動を推進してきました。

私たちを取り巻くごみの現状は、新型コロナウイルスの影響によって生活スタイルが変わり、家庭のごみが増え、収集場所のごみの量が多くなりました。

ごみ問題は、地球温暖化に悪影響を及ぼす問題が多く潜んでいます。気温の上昇が引き起こす異常気象は、人の命や健康に深刻な影響を与えています。身近に迫る環境問題を一人ひとりが行動意識をもって、解決に向けて取り組んでいくことが大切です。

分科会としては、①環境にやさしいこと未来に向けて私たちにできること ②カーボンシティの実現に向けてごみ減量とリサイクルを考える ③カーボンシティに向けて3Rから考える暮らし(循環型社会)を取り上げてきました。

2年間を振り返ってみると、社会情勢を「知る」という点から、学びの場がもっと必要でした。新宿区のごみ問題はどのようになっているのか、区の情報をキャッチして、ごみ問題をより良い方向へと、実現を果たしていくことが大切です。

ゼロカーボンシティに向けての取組をさらに深め、実践していくことが求められています。人間が生きていく上では、ごみ問題は終わることがないと思います。「私たちができること」を多くの人たちに伝え、ごみ減量と資源の有効活用を目指していきたいと考えています。

令和4年
3月25日から

資源・ごみの分別のお悩みを、すばやく解決！

新宿区資源・ごみ分別アプリ 「さんあ〜る[®]」配信中！

01
収集日カレンダー
& アラート



ごみの出し忘れを防止！

02
分別辞典



何のごみか簡単検索

03
お知らせ



新宿区からスマホへ通知

さんあ〜る

検索

こちらが目じるし！



App Store(iPhone) Google Play(Android)
からダウンロード

App Store
からダウンロード

Google Play
で手に入れよう



お問い合わせ 新宿区環境清掃部 新宿清掃事務所事業係
TEL 03-3950-2962 FAX 03-3950-2932

～エコライフ推進員の個々の活動報告～

【大気汚染問題を考える】環状5－1（明治通り）バイパス完成と歌舞伎町補助72開通で空港リムジンバス乗り入れについて



令和4年12月3日14時に、明治通りに新規バイパスが完成しました。かねてからの問題として挙げられていた、伊勢丹新宿店前の渋滞による大気汚染問題は徐々に解消に向かいつつあります。

※ここで取り上げる新規バイパス区間は、上記マップの新規開通場所を指します。伊勢丹新宿店前で大渋滞する要因は、新宿駅を挟んで東西に走る道は、甲州街道・新宿通り・靖国通りの3本ありますが、そのいずれも南北（渋谷や池袋）に抜ける道が接続していないために、すべての車が一度明治通りに出ないと先に進めないことに原因がありました。

それを解消するために計画された明治通りバイパスは、昭和21年3月に都市計画決定しましたが、長らく事業着工されませんでした。その主な原因は下記の3点を挙げられると思います。

- 1、都立新宿高等学校の運動場やプールなどの施設がある場所であること。
- 2、渋谷川の源流域で脆弱な地盤であること。（天龍寺の井戸付近から湧水があり、新宿御苑→隠田川→渋谷川と流れているので、バイパス予定地は脆弱な地盤です。）

3、新宿御苑の希少植物である落羽松（ラクウショウ）の群生地非常に近い場所であること。（落羽松（ラクウショウ）の根は、地面にゴツゴツとタケノコのように並んで下から生えていて、酸素を取り入れています。これらの落羽松（ラクウショウ）は、明治時代に植えられた樹齢100年を超すもので、大変珍しく貴重な樹木です。）

そこで、バイパス建設を着工するために下記の対策が講じられました。

- ・都立新宿高等学校を、統廃合で移転した区立中学校敷地へ平成18年1月までに移設しました。
- ・渋谷川の源流域で軟弱地盤と明治時代に植えられた貴重な木を守るために、当初4車線の対面式だった北行（千駄ヶ谷→新宿方面）道路を地下の「千駄ヶ谷御苑トンネル492m」、南行（新宿→千駄ヶ谷）は、そのトンネルの上を通過させるというたいへん稀な道路構造とし開通しました。

新規開通したバイパスにより、伊勢丹新宿店前の明治通りの交通量が半減し、通過に、もともと15分程度かかっていたものが、約5分で通過していると大幅な時間短縮が実現し、大気汚染問題も解消に近づきつつあります。

・
・
・

一方、歌舞伎町では、令和2年に開通した補助72号路線によって、羽田空港や成田空港からの直通リムジンバスが令和5年4月に開業した東急歌舞伎町タワーホテルへ、羽田空港から約35分、成田空港から約1時間30分で乗り入れています。それによって、国内外からの観光客やビジネスマンにとって都心部への利便性は格段にあがり、より一層新宿区が栄えるのはとても良いことと思いますが、「ゼロカーボンシティ新宿」の観点からは、問題があるのではないかと思います。

「ゼロカーボンシティ新宿」を考えるときに、車の排気ガスによる大気汚染問題を挙げないわけにはいかないと思います。今後は、明治通り伊勢丹新宿店前の渋滞が完全に解消できるのか、歌舞伎町に多くの車が入った場合に、どのようなことが起きるのか注意深く見ていく必要があると思います。

気候変動について知る

【はじめに】

このところ“SDGs “という言葉をよく目にするようになりました。「持続可能な開発目標」という意味で、「エス・ディー・ジー・ズ」と発音します。世界中の国々が一緒になって、地球を住みやすい星にしようという取組です。

例えば地球温暖化は深刻です。世界が暑くなることにより、海水温が高くなり、日本にやってくる台風が強大化しつつあります。そうなれば今まで以上に、建物が倒壊したり、川が氾濫したりするかもしれません。これは「持続可能」ではないということです。

「持続可能」とは、わたくしたちの子どもや孫たちの世代にも、豊かな自然があり、きれいな水が飲め、皆が健康に過ごせるような状態が残るようにすることです。

世界には、貧困で苦しんでいる人、食べ物や飲み水をめぐって争いになっているところもあり、そのことで病気になり、伝染病となり世界中その病気に感染するかもしれません。

こう考えると、『遠い国での出来事』と思っていたことも、身近な問題であると思えてきます。わたくしたちの世界をより良い場所にするためには、何が必要なのか考えてみて、気候変動に具体的な対策を講じてみたいと思います。

【気候変動】

屋外で活動できないほど暑くなる日が年々増えてきました。台風や豪雨などがこれまでに激しくなって、多くの人の生活が脅かされることもしばしばあります。これは、地球の平均気温がじわじわと上がり続けていることが原因とされています。

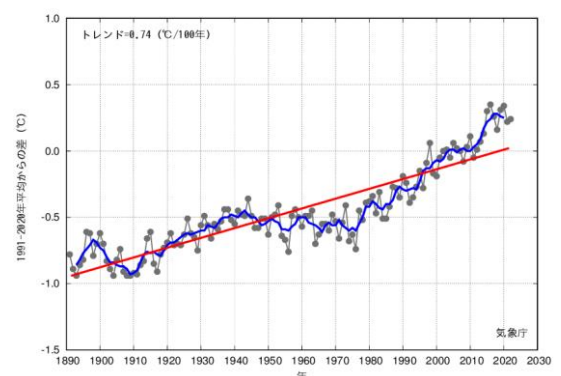
こうした気候変動によって、植物や動物も大きな影響を受けています。生活できる環境を失って絶滅の危機にさらされる生物もいます。こうした問題はなぜ起きているのでしょうか？ 原因を知り、それを根本から取り除く対策と、今起きている被害、予測される被害をできるだけ小さく抑える対策の両方が必要です。

1. 温暖化と災害

① 異常気象と地球温暖化

近年、極端な高温や大雨などの異常気象の頻度が増えています。その原因は、温室効果ガス（地球の表面や大気、雲で特定の波長の放射線を吸収し、放出することで温室効果を引き起こすガスのこと）による地球温暖化によって、大気中の水蒸気が増えたためだと考えられています。そして現在も温室効果ガスの排出量はぐんぐん増加してい

世界の平均気温の変化

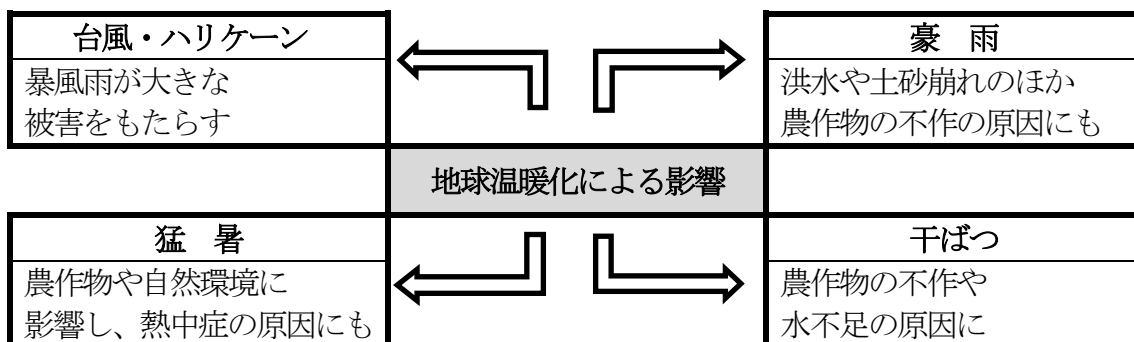


<1880年から2012年の間に0.85度も気温が上昇>

ます。(参照：IPCC[気候変動 2013 自然科学的根拠(政策決定者向け要約)])

② いろいろな異常気象・自然災害

温暖化は気温の変化だけでなく、台風やハリケーン、集中豪雨、海面上昇などの原因となるほか、猛暑や干ばつなどをより頻繁に引き起こします。



2. 気候変動ってなくせる

① 二酸化炭素を排出しているのはどこ？

温暖化の原因となる二酸化炭素は、発電所や工場、自動車が主要な出どころです。これらを理解し、二酸化炭素を減らす方向と、温暖化による災害の被害を抑える方向の二方面から対策を取る必要があります。

【日本の部門別二酸化炭素排出の割合】

エネルギー転換部門（発電所等）	39.1%	家庭部門	4.8%
産業部門（工場など）	25.2%	工業プロセス（石灰石消費など）	4.1%
運輸部門（自動車など）	17.9%	廃棄物（廃プラスチックの償却等）	2.8%
業務その他部門（商業施設等）	5.8%	その他	0.3%

参照：温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ」

② 気候変動を解決する具体的な対策は？

2015 年、すべての国が参加して、21 世紀後半には温室効果ガスをゼロにすることを目標とする協定が採択されました(パリ協定※)。国際的なルールが広まることで、気候変動が「みんなの問題」となるのです。※パリ協定 ⇒ 2020 年以降の地球温暖化対策の国際的な枠組み（すべての国が参加し、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて 1.5 度までに抑えるという努力目標）の取り決めを行った協定のこと。

【各国別の二酸化炭素排出量の割合】

中国	28.4%	日本	3.2%
アメリカ	14.7%	ドイツ	2.1%
インド	6.9%	その他	40%
ロシア	4.7%		

参照：EDMC「エネルギー・経済閲覧 2021 年度」

③ 気候変動への“適応”も目指す

気候変動による災害として、水害や土砂崩れ、高潮や高波、水不足、猛暑などがあります。気候変動を抑える対策だけでなく、雑賀に対して、行政や企業、市民(国民全体)が連携して立ち向かう必要があります。

【まとめ】

温暖化により、世界中で異常気象が増えています。温暖化の原因となっている温室効果ガスは、今も増え続けています。温室効果ガスの排出を抑えるためには、世界中の人の協力が必要です。

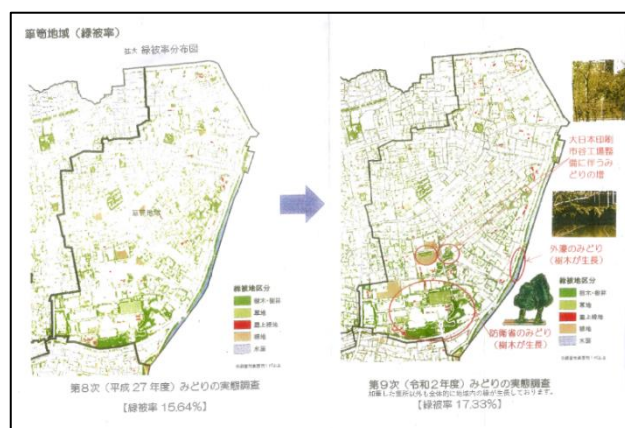
ささやかな活動

それはささやかな活動であるかもしれません。近頃は新型コロナウイルス感染症のため地域活動は半減しています。この混迷不安な日々にも偶然でしょう。箆笥地域は新宿区より「みどりの推進モデル地区」に指定されています。この混迷の時期だからこそ、みどりの現状はどうなのか知りたいと思います。

新宿区では「第9次新宿区みどりの実態調査報告書」(令和3年2月)によると、箆笥地域のみどりの緑被地については、緑被地 38.64 ヘクタール、緑被率 17.33%です。第8次報告書(平成27年発行)より緑被地面積 4.03 ヘクタールと、1.69 ポイント増加したと発表されました。緑化推進活動をすすめている箆笥としては励みになりやりがいのある報告です。

新宿区ではこの数字とは別に緑被分布をカラーの図面にして公表しています。ひと目見て分かる便利な図面です。私はこの緑被分布図面を利用し、箆笥地区部分を新宿区全体図面より切り離して、原図面より3倍に拡大して、ひと目見て分かるカラーの箆笥地区の緑被分布図を作成しました。この分布図を教材資料として活用し、地域の緑化活動を更に推進していきたいと思います。

<箆笥地区 緑被率の推移>



生存する為に

この夏、新宿の暑さは耐え難い時が多く、疲弊したこの星を案ずる毎日です。私は便利すぎるこの国で、ゆっくり時間を過ごしています。戸山公園あるいは新宿御苑に身を置き、植物、生物の観察そして西新宿シニア活動館での庭園手入れから感じ得ることができました。我が家ではベランダにて植物や乾燥青果を作り、太陽光を有限活用いたしました。習慣となったゴーヤ栽培で、盛夏でも冷房依存にならず過ごせました。電力使用も過剰にならず安堵いたしました。食生活では肉、青果は個人商店での購入に重きを置き、プラスチック容器の削減に努めています。そして、入浴は銭湯、おすそ分け等もよい環境作りには大事な取組だと思います。これからも暮らしの中から生きる知恵を発見したいです。

エコライフ推進員に関わり長い時が過ぎました。新宿区エコリーダー養成講座を経て縁あり今まで続けられたことはありがたいことです。地域の人々と集い話し合うことは学びの機会です。少しずつ環境に関する知識が増えたので、より持論を発信したいです。

地球の現状に関心を持つ人が増え、共にこれからを考えることが大きな力となります。

施設見学会について（ダスキン横浜中央工場及び横浜市鶴見工場）

ダスキン横浜中央工場は、衛生商品や掃除関連商品を扱っており、食品のフードグループミスタードーナツも展開しています。

ダスキン横浜中央工場では、

○マットやモップ等を洗浄（洗濯）、加工、乾燥、仕上げを行っており、商品はレンタルシステムになっています。

○汚れたマットやモップ等をキレイにして送り出すなど、循環型システムとなっています。

そのほか、環境への取組として、以下の取組を行っています。

○水の使用量（2,500ℓ/日）のうち、40%は再利用するといった水のリサイクル

○エネルギーの削減（CO₂の削減）

○リサイクルのできない商品は、燃料として活用

ダスキン横浜中央工場は商品をお客様より回収をして（マット・モップ等）洗浄、乾燥、仕上げをしてまた戻す事が、主な作業です。工場内は、清潔で、従業員の方々も礼儀正しく、明るく作業をして居たのが印象的でした。また、CO₂削減にも努力をしていました。

横浜市鶴見工場では、

○横浜市内からゴミを収集して燃やし、その際出る熱で電力を 13,300 ワット発電して
余った電力は、売電しています。

○館内の電力はすべて賄っています。

○焼却工場は、市内に 4 ヶ所あります。

館内は

- ・中央管制室で指示しています。
- ・5 人 1 組で 1 日 4 回制（24 時間体制）
- ・1 日 800 万トン燃やしています。
- ・1 回 400 トンを 1 基で燃やしています。

※ゴミを回収し、それを燃やして、発電した電力を活用し、また売却もするというが、
簡単な事ではなく、分別をし、燃えやすくして燃やす作業をする事が、どれだけ大変
な事が良く分かりました。この工場も、分業になっており、担当者は、それに応じ
て、頑張っておりました。

最後に、参加者は 11 名と、少人数ではありましたが、行動も取りやすく、何よりも、
穏やかに、楽しく行って来る事が出来ました。

私は、エコライフ推進員の施設見学会に、参加したのが初めてでしたが、他の推進員
の方とも知り合え、有意義な見学会でした。

そして、ゴミの削減やそのリサイクルに、増々努力をしたいと思います。

エコライフ推進員の活動を通じて思ったこと、感じたこと

個人としてできるエコライフは、小さなことならたくさんあります。私は、日頃から
ゴミの分別は意識して家族にも協力をお願いしていますが、たまに出るゴミなどは間違
えたりするので、幾度となく注意することもありますし、私もわからなくて調べたり、
買い換えは簡単なので下取りを利用したりします。

身近なこととして、台所の生ゴミは小さく切ってから捨てるようにしています。捨て
る場所はプランターの土の中。土のリサイクルにとって、生ゴミは貴重なお宝です。た
くさんの生ゴミを分解した土は、上質な土となります。野菜を育てた後もやわらかい状
態です。生ゴミのリサイクルを知ったのは新宿区で開催された“みどりのカーテンプロ
ジェクト”でした。

初めて参加した年は詳しい説明を聞いて、頑張ってたてました。ゴーヤの内側は不思議
と暑さが軽減され、こんなに植物の力は凄いものかと、初めての驚き体験でした。ゴー
ヤも苦いというイメージでしたが、オレンジ色に熟したものは甘くジュースやスムー

ジーにすると美味しいと教えていただきました。これも自家製ならではの楽しみ方です。

初めてゴーヤを育てたときは、普通の新しい土を使用したものの、収穫後の土はカチカチで、根っこを取り出すのが大変でした。翌年は、区内で開催されたセミナーに出席して教えていただいた土のリサイクルを实践し、リサイクルした土を使いゴーヤを育てました。リサイクルした土は収穫後もフカフカで驚いたことを覚えています。それ以来、わが家の生ゴミはプランターの土に捨てるのがわが家の常識になりました。

しかし、夏は生ゴミの分解速度も早いのですが、野菜を育てることも多い季節です。残念なことにゴミとして処分する必要も生じ、お宝をゴミ集積所に捨てることもあります。そのときに注意していることがひとつあります。乾燥させて軽くすることです。ゴミの処理費用は重量によると知ってからでは水分に注意し、できるだけ乾燥させます。大切な税金が使われるのですから、とても重要なことですよ。

しかし、エコライフ推進員として活動する前は、ぼんやりと知っているつもりで、しっかりと理解できていませんでした。区の税負担を軽減するために、区民一人ひとりが簡単にできることなのに、恥ずかしいですが勉強不足でした。毎日の仕事に忙殺され、大切な日常に意識が向いていませんでした。

都会での生活は大変です。会社に勤めていると、通勤ラッシュに疲れはて、心に“ゆとり”がなく、時間に追われた生活になりがちです。子育て世代は育児も大変です。そのような状況で地域活動に参加するのは難しいと、経験から理解できます。

大切なのは、それぞれの立場で無理せず参加できるような地域活動を企画し、どのように周知していくか。また、継続性のある内容でないなりません。機会があれば“みどりのカーテンプロジェクト”について説明しますが、マンションだからと難色を示します。道具の準備から説明まで、手取り足取り教えてもらえると話をしても、否定されることが多いのが、とても残念でなりません。伝え方が悪いのか悩んだこともあります。伝えるなかで気づいたことがあります。それは“ゆとり”です。

どんなに素晴らしい企画でも、心に“ゆとり”がないと相手に伝わりません。ポスターやチラシが目映っても、心まで届きません。まず、区民の生活に必要なのは“ゆとり”ではないでしょうか。

咲き乱れる庭の木・街の木「つつじ」に魅せられて

第10期のみどり・生き物分科会のテーマは新宿区の花「つつじ」に決定しました。しかし、実際何をするか良くわかりませんでした。まず、大久保地区を中心に花を観ることと各人が周囲のつつじの写真を撮影することでスタートしました。桜の花の後に咲くつつじですから、スタートの頃は、どこにつつじがあるかさえわかりませんでした。温暖化の為に花の咲く時期が年々早くなり、つつじも例年より咲き出すのが早く、早速カメラを手に歩いてみると思っていた以上につつじが咲いていました。

つつじといっても色はもちろん花の大きさ、咲き方、咲く時期など様々でその種類の多さに驚きました。そこで、ただ撮るだけでなく少し調べてみることにしました。今まで「積ん読」だけだった「園芸大百科事典」を久しぶりに開いてみると普通は多くて1～2頁、或いは半頁かもっと少ない花の説明になっていますが、つつじの項は21頁も占めていました。それだけ内容が多いのにおどろきました。

ですが、萬葉集に詠まれ古くからつつじといわれていたようです。寛文年間（1661～1673）に始まったつつじ栽培の流行も30年後の元禄時代が最盛期となり173品種と大方その品種も出尽くしたようです。江戸では染井で盛んに栽培されていたようですが、江戸末期になると染井のつつじが衰退し、つづいて大久保のつつじが有名になってきました。そのことは天保7（1836）年刊の「江戸名所図会」また、文政10（1827）年刊の「江戸名所花暦」に大久保のキシマつつじの紹介があります。

大久保つつじ園は江戸末期市民の行楽地として人気を集めていました。キシマつつじが主体で最初は武家屋敷の庭に植えられていたが、のちには多くの植木業者が栽培をはじめ、明治時代まで国内外まで多数の苗を販売していました。

品種としては、キシマつつじの外にクルメツツジ、ミヤマキシマ、ヒラドツツジなどあるなかで新宿区の区道に植栽されているのは「大紫つつじ」で、これは江戸時代から植栽されていた大型のつつじでヒラドツツジの一種と推定されます。寒さに強く、不良環境に強く旺盛に生育するので、公園や街路、工場の植込みに使われてきました。特に寒さに強い品種ではヒラドツツジ系統の中で群をぬいています。

つつじは写真を撮り、鑑賞するだけでなく、栽培の方法、刈り込み、花後の手入れ、病虫害、ツツジとサツキの違いなど、もっとつつじについて深く学び、区民とも色々共有することの出来る時間等を作ることが出来たのではないかと深く反省しています。来年の花が咲いた時はもっと品種などを確認しながらたのしみたいと思っています。



「火の色に燃える花も 雪の白さを保った花も
 | おなじ朝を迎え 夜を迎える |
 | その幸せを測るのは 蜜蜂になって 花の道を辿ること」

園芸大百科事典より

ダスキン横浜中央工場、横浜市鶴見工場を見学して

<ダスキン横浜中央工場>

ダスキンでは衛生管理商品には、モップやマット等を定期的に貸し出しするサービス、フード関係には、ミスタードーナツがあります。

- ・物を大切にしていきたいとの考えで洗浄～加工～お手元へ
- ・循環型社会への貢献を考えてレンタルにしている
- ・工場用水を使って洗浄している
- ・CO₂削減の取組として月1回環境委員会をもうけている
- ・モップ等は洗った後にも最後には人の手で細かいゴミがないか確認している

私たちの手元にくるまでには、環境を考え細部まで心配りをしていることを感じました。

<横浜市鶴見工場（ゴミ処理）>

毎日沢山のゴミが運ばれてきます。水分の多いゴミは時間もかかり熱量も多くかかります。

私たちに出来ることはリサイクル、リデュース、リユースを考えること、また、ムダなゴミを出さずよく水を切り食品ロスを考えて食べ物を買過ぎず残さない、保存等の工夫を考える（たとえば冷蔵庫に入っている物をメモにして貼っておく）ことなどがあると思います。

以前工場に行った時は、清掃車が多く順番を待っていましたが、今回は見学中1台の車しか入って来ませんでした。これは少しゴミが減ってきているのではないのでしょうか？

エコライフ推進員の活動を通じて感じたこと エコライフを地域や多くの人にどの様にしたら広めて行けるか

エコライフ推進員に公募で応募しました。出席して先ず驚いたのは私をはじめ参加者の顔がほぼ高齢者であったことです。行政に何かとずっと関わっている人が多くお互い面識がありつながりが有る様でした。しかも雰囲気はマンネリ化している感じでした。新参加者の私はこの活動がいつ頃から始まったのか知りませんが、先ず、スタート時にエコライフの何たるかを如何にして広く区民に啓発するか考えるべきであったと思います。

行政側への注文になりますが、もっと区民の各層に参加を促す方策を考えてみては如何でしょう！新宿区には、沢山の大学、専門学校も各種あります。若い人達への参加を働きかけて下さい。実際にエコライフの最中にある主婦層にも託児サービスをしての参入の機会を与えましょう。デパート、銀行、歌舞伎町のホストの皆さん、ありとあらゆる層の掘り起こしを試みて下さい。地域の多くの人に広がること、まちがいないでしょう。

また、あちこちの地域交流館の活動にもエコライフ推進の啓発講座を組み込んで地域の多くの人達に波及するように努めると効果があると思います。特に区の直轄下のささえーる館は他の民間委託施設とはその任務を異にする必要があると考えます。地域の交流館は高齢者だけの趣味、健康施設に片寄っている現実を改革し、エコライフへの道も加えるとより地域住民の意識も変化することでしょう。現在、私の住む集合住宅に在った自治会は、最近、その存在が無くなったようです。新宿に転居してきた者としては若干寂しいものがありますが、過去に於いて、自治会からの働きかけも一切なく、民生委員の訪問もありませんでした。他の地区では、それらのことが実施されていました。エコライフ推進員の中にも、いくつかの役職を兼ねての人がいる様でしたが、一人の活動力は無限ではありません。新規の勧誘、加入をすすめて行くことが必要です。

ところで、最近地域のお祭りが盛んですがこのような場所、時期を利用しての活動、広報も効果的ではないでしょうか？区の花であるつつじの認定も浸透する機会だと思います。つつじの苗を配るのも一手です。地域交流館の祭事も同様と考えられます。更に、私見を申し上げますと私の故郷北九州市の行政に係る吏員の動きとここ新宿区の方々のそれがかなり違っていると感じます。区民の住む町へ職員が出かけることが、より区民活動を活発にするのではないかと思います。より多くの区民と繋がることで区民の意見がくみとれますし、行政への理解が得られます。私の尊敬する元北九州市長が常に職員に言われていた言葉に市民と密着して仕事をして貰いたい。但し、癒着しない様にとありました。先日、逝くなられた出雲市長でいらした岩国哲人さんも行政は、サービス産業と言われていた事と併せ全くその通りであると思います。地域の多くの人に行政への関心を如何に成すか新宿区役所の正念場であります。

新宿区の花の「つつじ」をより広く普及させたい

「つつじ」が新宿区の花となった経緯は、徳川家康が江戸幕府を開いた時、江戸城を守るため、大久保に鉄砲隊をおいたのですが、泰平の世になり、鉄砲隊は 生活の糧を得るため、「つつじ」を栽培するようになって、それが、現代で新宿区の花になりました。

新宿区には、あちこちに公園があります。5月になると公園だけでなく街路樹の間に、又、建物の植え込みにと、沢山の色とりどりの「つつじ」の花が咲きます。そして、花が終っても、緑の葉っぱは枯れる事なく、秋になり、冬が近づいてきても、青々と新宿区の花として存在感を保っています。

「みどり・生き物分科会」のメンバーは「つつじ」の花が咲いているおとめ山公園や百人町ポケットパークに行き、「つつじ」の観察をしました。残念ながら私は参加出来ませんでしたが、日をあらためて、戸山公園のひだまりの丘に戸山小と大久保小の児童が楽しそうにつつじを植樹している光景を想像しながら、真赤に咲いている「つつじ」を見てきました。

6月の新宿エコライフまつりは、コロナ禍で4年ぶりに通常開催されたとのことで、私は初めての参加でした。午前中は雨が降り、私は午後からの参加でしたが、大勢の子供連れが参加していました。「みどり・生き物分科会」は、押し花を使つての葉書としおりづくりのワークショップを行いました。

小さなかわいい押し花が沢山用意しており、子供達が楽しそうに押し花を選び 出来上がった作品をうれしそうに抱えていました。

たまたま、私の地域の地域センターの方が見に来ていて、秋に開催するセンターまつりでも是非やって欲しいという事になり、押し花を提供して頂き、指導もして下さることになりました。とても好評で、終了前に用意した材料が全てなくなり、センターの方達に、「みどり・生き物分科会」の活動を知ってもらえました。

環境に関する地域への普及活動

1 笑顔いっぱい! 「花いっぱい!!運動」

若松地域センター管理運営委員会のスタッフが、地域センターの前庭花壇を整備し、暑さや寒さに強い花苗を植えています。道行く人たちは、花々を眺めたり育つ様子を見たりして、楽しむ姿が見受けられます。また、若松ふれあいまつりでは、無料で花の苗を配布し「地域に花いっぱい咲かせよう!!」運動を実施しています。花苗が、あっという間に地域のみなさんに渡ります。年末には、講師を招き、クリスマスや正月用の花の寄せ植えを行います。季節の花々を楽しむことが出来ます。樹木に囲まれた花々を眺められる広場があり、憩いの場として多くの人に親しまれています。これからもみどりと花の普及活動を行っていきます。

2 町会の資源回収

毎月指定の日時に、町会の人たちに古紙・段ボール・缶・古着などを出していただき、回収事業者へ引き渡しを行っています。ごみとして出せばただのごみ、資源として出せば蘇り再利用につながります。

3 リボンの会の衣類預かり

リボンの会の衣類預かりを実施し、衣類ロスに役立っています。
令和4年5月29日(日)には約25t、令和4年12月4日(日)には約19tを回収し、海外で必要としている人たちに使ってもらおうよう、業者に引き渡しました。

4 「ゼロカーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える」

= テーマであるパネルを作成 =

以下3枚のパネルを分科会にて作成し、「3R推進キャンペーン」(令和4年9月23日(祝)~24日(土)、会場:新宿駅西口広場イベントコーナー)及び「第20回まちの先生見本市!」(令和4年12月24日(土)、会場:エコギャラリー新宿)にて掲示し、分科会の活動を広く周知しました。

- ① 「環境にやさしいこと」未来に向けて! 私たちにできること
- ② カーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える
- ③ ゼロカーボンシティの実現に向けて3Rから考える暮らし(資源循環型社会)

また、分科会委員4名で手作りのパネルを作成し、「3R推進キャンペーン」(令和5年10月21日(土)、会場:新宿駅西口広場イベントコーナー)に掲示し、食品ロスと衣類ロスについて周知をしました。

5 生ごみだってリサイクル!!生ごみの削減にチャレンジ!!

「アスカマン」とは、生ごみを水や二酸化炭素に分解し、土に還す発酵促進剤です。生ごみをアスカマンと一緒に埋めることで分解された栄養分になります。それを活用して手軽に家庭菜園や園芸が楽しめます。特徴は、費用・場所がかからず手軽にできること。生ごみを入れてすぐに作物・花を植えられ、発酵を待つことなく手軽に取り組めます。生ごみを分解することで、良質の土になるため、植物がよく育ちます。生ごみ処理としてだけ使うこともできます。

6 アスカマンを利用した土づくり

アスカマンを利用した土づくりは、庭の場合もプランターの場合も同じ方法です。生ごみ⇒アスカマン⇒土の順番で層になるように重ねて、プランターや庭に入れると生ごみが堆肥になり、生ごみの減量と土づくりが同時に出来ます。水分がある程度ないと微生物が活性化しないため、生ごみの水を切る必要がありません。

生ごみの削減をすればするほど、楽になります。ごみ減らしの工夫をこれからもチャレンジ!!していきます。

10 期において、これまで取り組んできたこと

新宿中央公園ビオトープの会で、多様な生き物の生息が可能なように維持管理を行っています。近隣の方々から一見草むら茫々で見苦しいとの意見も頂きますが、トンボ（シオカラ、ギンヤンマ等）や蝶（アゲハ、モンシロ等）、バッタ、コオロギ、カマキリ等の昆虫類や鳥類が観察できます。

また、鳥類が運んできた種子（主に糞中）からの実生や野草が多種生息しています。池では2月～3月にアズマヒキガエルの産卵がみられます。園内への動植物の持込・持出は禁止しておりますが昆虫網と虫かご持参の親子が絶えません。見かけたら捕獲しても良いが観察したら元の場所に放すようお願いしています。飼育できなくなった生き物等の無断持込（駆除生物等）に苦慮しています。

並行して区内小学校2年生の自然観察会を実施し、外来生物や特殊駆除生物の理解と啓蒙を行っています。また、近隣の小学校5年生とビオトープ内の田圃での稲作授業（田植、稲刈り、脱穀、粃摺り、藁工作）を実施しています。

新宿区の花「つつじ」 区民に広げよう

新宿区では昭和 47 (1972) 年 10 月に、たくましい緑の葉ときれいな花のつつじを「区の花」としました、51 年前のことです。新宿区エコライフ推進協議会のみどり・生き物分科会は新宿区の花つつじを区民の皆様に広める活動に取り組んでいます。

今年の 4 月には、大久保地区協議会・まちの将来像分科会の会長さんの案内で、区内のつつじの探索をして、「区内のつつじを見つけようマップ」を作製し、令和 5 年 6 月 3 日の新宿エコライフまつりに展示しました。

新宿区の花つつじは先人の築いた永い歴史と文化を受け継いでいます。今から 420 年前の 1603 年に、徳川家康が征夷大將軍になり、江戸幕府を開いた際、「鉄砲組百人隊」を配備しました。現在の百人町です。鉄砲組百人隊は甲州街道と江戸城の警護をおもにしていました、江戸幕府が安定してきて、戦のない平和の時代になりました。宝暦年間 (1751~1764)、江戸時代が平和を求めています。園芸植物を育てることが流行しはじめていました。大名屋敷や町人たちの住まいなどに造園材料として様々な植木が植えられ、人々は花を楽しむようになっていました。幕府の警護に当たっていた鉄砲組百人隊の同心たちは、戦がなく、手柄を上げる機会もなく、禄高 (給金) があがる見込みもなく、彼らは家計の足しに副業として美しい花つつじの栽培を始めました。

当時のようすがうかがえる随筆「遊歴雑記」(ゆうれきざっき)(文化 11 (1814) 年刊)には以下のように書かれています。<百人町の組屋敷北の通りに飯島武右衛門(いゐじまぶえもん)という同心がいて、その屋敷にあるつつじが有名でした。家の庭には大小のつつじが 20~30 株が植えてあり、その色も形も実にみごとでした。裏庭にまわると一面つつじが植えられています。木の高さは(約 2.4m~3m)低くても(0.9~1.8m)で庭の左右に数千本あり、植えられている庭園の幅は東・西(約 14・7m)、南北におよそ(218m)という広さです。中にあるのはすべてつつじです。季節としては、立夏より 4・5 日間がもっともすばらしく、花が咲きそろったときには見ている人の顔も紅に染まったようです。諸大名の奥方も集まり、その組屋敷内で一日中酒を飲み、遊んでいきます。家々の垣根にも、すべて琉球(りゅうきゅう)つつじが咲いており、東の木戸から西の木戸まで、西側の垣根には燃えるようなつつじのようすが見えました。しかし、家々のどんなつつじの大木があっても飯島武右衛門のものにはかないません。このように飯島武右衛門のつつじは特に有名となりました。>

このように、内職だったつつじの栽培は、すでに江戸中に知れ渡るほど有名になっていたのです。そしてその名所を造りだしたのは、ほかならぬ鉄砲組百人隊の武士たちだったのです。明治維新後、大久保つつじは土地の払い下げにより、一時期荒廃したといわれています。

明治 6 (1873) 年に東京府知事はつつじ園を元の姿に戻すように提案し、中島(姓)・須藤 直久・大竹 国太郎・中村 忠義の 4 名が発起人となり、共同経営でつつじの名

所を再興することになりました。そして約7000坪の土地を10名余が共同で借り受けて、近在の家々から数百株の花樹を出させて、明治16(1883)年につつじ園を開設しました。このつつじ園は、元つつじ園とも呼ばれました、また、明治20(1887)年には南町に共同のつつじ園が開設されて、これを南町つつじ園と呼び、共同のつつじ園以外に、日の出霧島を作り出した日の出園、中村園、吉野園などが次々に開園し全部で7園となり、株数1万といわれていました。この時期が再興を果たした大久保つつじの最盛期でした。明治32(1899)年には明治天皇がつつじの鑑賞に訪れ、「まがねしく道のひらけてつつじ見に行く人おほし大久保の里」という歌を詠まれました。皆中稲荷神社境内入口にはその歌碑があります。

戦後、地元商店街の植木好きの人たちが皆中稲荷神社の境内で植木の育成や品評会を行っているうちに、大久保の歴史に縁のある人たちでつつじの保存会を作ろうということで「大久保つつじ保存会」が発足し活動を行なうようになりました。江戸時代から明治にかけて名を馳せたその歴史と文化がある新宿区の花「つつじ」を区民の皆様といっしょに広めましょう。



混戦の脱炭素チャレンジと生活の知恵

1. 前回の活動報告で実生活でのゼロカーボンシティへの取組を報告しました。その後急激な地球温暖化や気候変動は未知の領域に突入し、大きく変わろうとしています。

国連大学が人類や地球にとって取り返しのつかない転換点として6つのリスクを発表しました。その関連資料が次々と話題となり、猛暑で50万人／年亡くなり、人類の生存が出来ないなど、解決策のないままに進められています。

令和5年度の活動は3R推進キャンペーンで展示され、よくまとめられました。少しずつでも実行すれば成果に結びつくはずです。20年前に、横浜市がごみ分別を徹底し、処理工場や収集車を削減することで経営面での大きな成果を上げました。今、西東京市も取り組んでいます。これらのデータをもとに環境活動に積極的に参加したいものです。

2. 脱炭素の実践は夢物語でない、やれば出来る。

2.1 デンマーク、2050年までに再生可能エネルギー100%

2.2 ハケ岳のエコハウス「ほくほく」、自然エネルギー100%

2.3 サーキュラーエコノミー、百貨店、H&M、凸版印刷、エコログ等

2.4 東京都のH T T、京都市の産廃物の発電、CO₂排出ゼロの実現を企業で

2.5 東京の熱。市場、ラボの中小企業の脱炭素支援

2.6 環境ビジネスの取組、電力、CO₂、廃棄物ゼロの見える化

2.7 食品ロス削減、ホテルメトロポリタンエドモント他

3. 実用化が進む新技術

3.1 水素の活用

3.2 太陽光パネル、フィルム化、コスト競争力、高効率化

3.3 家畜糞尿等の液化バイオマス、廃液の燃料化

3.4 新しい型のP P A

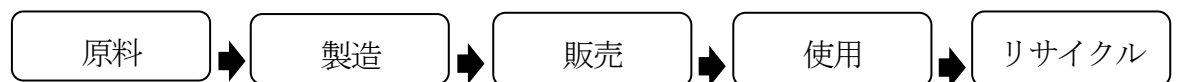
3.5 生成A I（人工知能）と真のオムニチャネル

3.6 ヒートポンプの使い方

3.7 生ごみの水分80%を10%に(USA)。集め方など

3.8 物流のCO₂削減

見える化WGの目指す姿のイメージ



まで多くのステップで物流が関係している。

3.9

サーキュラーエコノミーの三原則
Eliminate（廃棄物と汚染を生み出さない）
Circulate（製品と原料を使い続ける）
Regenerate（自然システムを再生する）

4. 取組と注意点

4.1 近くのテーマの例

SDGs ライフスタイルシフト グリーンリカバリー 地域循環共生圏 地域電力 地域活性化 まちづくり 地域マネジメント モーダルシフト コミュニティ 市民協働 普及啓発 エシカル エコツーリズム 節電対策 環境教育 ESD 出前授業 郊外活動 社会交流 社員研修 ビジネスモデル サプライチェーン 次世代型 製品開発 技術開発 素材研究 社会貢献 CSR CSV 先進導入 実践活動 地域連携 廃棄物利用 3R リサイクル 生物多様性 森林吸収 食育（フードマイレージ／食べ残し） 地産地消など

4.2 技術と費用と施設・企業が多く取り組んでいる。

4.3 資源の安定性、原料のコスト、管理、流通、市場、企業としての可能性

4.4 見せかけのエコ、広告、投資、科学的根拠、規制など厳しく

4.5 化石燃料がなくなり、石炭のガスからはCO₂を回収する。

4.6 生成AIの技術が加速し、GPS（衛星利用の測定システム）が活用

メトロポリタン新宿には意外と緑があった

『ブラタモリ』というNHKの人気番組があります。タモリが街をブラブラ歩きながら放送回毎のテーマに従って、その土地の成り立ちや環境、社会、経済についてのなぜを解明していく番組です。私は今回地球温暖化を考える分科会の活動でブラタモリの新宿街歩き「風のみち」「水のみち」編を経験できました。

約1年間をかけてめぐった場所は、新宿御苑、戸山公園、おとめ山公園と周縁部の濠と水路です。新宿区は案外起伏に富み、自然もそれなりに残っていて拠点となる公園と周縁部には森と呼べる場所もありました。また、川も思ったより清流で環境が維持されています。今回のイベントはメトロポリタン新宿に森と清流があることを発見する機会となりました。水辺の遊歩道は快適に整備されていて再び訪れてみたいと思いました。

都市緑化における二酸化炭素 CO₂ 吸収量の一考察

新宿区は 2030 年に二酸化炭素実質排出ゼロを目指す、ゼロカーボンシティの表明を行いました。このことから、本報告では緑化による CO₂ 減少について報告します。

●みどりのカーテンのレッドロビン、ゴーヤと街路樹、スギ植林による二酸化炭素 (CO₂) 吸収



画像 1 みどりのカーテンレッドロビン



画像 2 壁面緑化のゴーヤ



画像 3 街路樹



画像 4 スギ植林

みどりのカーテンのレッドロビン(画像 1)、ゴーヤによる壁面緑化(画像 2)、そして街路樹(画像 3)は、太陽光により光合成を行い、CO₂の吸収を行います。日本は国土の 2/3 が森林(約 2500 万 ha)であり、世界でも 20 位以内の森林大国です。森林サイクル

は、山林のスギを伐採、地拵（じごしらえ）後に、スギ苗の植栽（植えつけ）を行います（画像 4）。植林されたスギの成長により、数十年間 CO₂ を吸収し続け、固定します。

●緑化の二酸化炭素（CO₂）吸収量

緑化は、CO₂ を吸収する大きな効果を示します。そこで、画像 1～4 で示した都市緑化の場合について CO₂ 吸収量の検討を行いました。

スギの木 1 本の CO₂ 吸収量は、年に 14kg です。また、樹木の葉は面積 1 m² で、年に 2.6 kg の CO₂ を吸収します（公害健康被害補償予防協会 1995、＜改訂版＞大気浄化植樹マニュアル、：平成 16 年参照）。したがって、画像 1 で示した、みどりのカーテンレッドロビン、および画像 2 で示した壁面緑化について、CO₂ 吸収量の算定ができます。

この場合、太陽光による照射面積が、縦横 3m で 9 m² になるので、 $9 \text{ m}^2 \times 2.6 \text{ kg} \cdot \text{CO}_2/\text{m}^2 \cdot \text{年} = 23.4 \text{ kg} \cdot \text{CO}_2/\text{年}$ の吸収量となります。次に、画像 3 の街路樹は、太陽光が樹木の真上から照射した場合、日蔭がほぼ円形になることを利用して、照射面積を想定しました。例えば、直径が 2m の場合 $\pi \cdot 1^2 \times 2.6 \text{ kg} \cdot \text{CO}_2/\text{m}^2 \cdot \text{年} = 8.2 \text{ kg} \cdot \text{CO}_2/\text{年}$ の吸収量と算定できました。

新宿区のみどりの実態調査（第 9 次）概要版（令和 3 年）から、緑被面積は 328,16ha なので、 $328,160,000 \text{ m}^2 \times 2.6 \text{ kg} \cdot \text{CO}_2/\text{m}^2 \cdot \text{年} = 8,532.16 \text{ t} \cdot \text{CO}_2/\text{年}$ と推定されます。したがって、街路樹 11,302 本の場合は、 $11,302 \text{ 本} \times 3.14 \text{ m}^2/\text{本} = 35,488.28 \text{ m}^2$ の照射面積になります。そして、 $35,488.28 \text{ m}^2 \times 2.6 \text{ kg} \cdot \text{CO}_2/\text{m}^2 \cdot \text{年} = 92.27 \text{ t} \cdot \text{CO}_2/\text{年}$ になることが推定されました。このことから、緑被面積に対する街路樹の CO₂ 吸収量は、1.1% 程度になることがわかりました。

画像 4 はスギ苗による植林を示したものです。植林面積が約 0.5ha の CO₂ 吸収量については、スギ人工林の場合 30～40 年後に年間 4.4 t の二酸化炭素（CO₂）を吸収すると推定されています（林野庁資料参照）。

●まとめ

レッドロビン、ゴーヤ、街路樹そしてスギ植林の CO₂ 吸収量について検討した結果から、以下のことが明らかになりました。

- (1) 都市緑化は、CO₂ を吸収する効果を示すことがわかりました。
- (2) 新宿区の緑被面積に対する街路樹の CO₂ 吸収量は、1.1% 程度と算定されました。
- (3) 森林伐採後のスギ植林は、30～50 年の成長期間で成長し、森林サイクルを行いながら大量の CO₂ を吸収・固定することがわかりました。

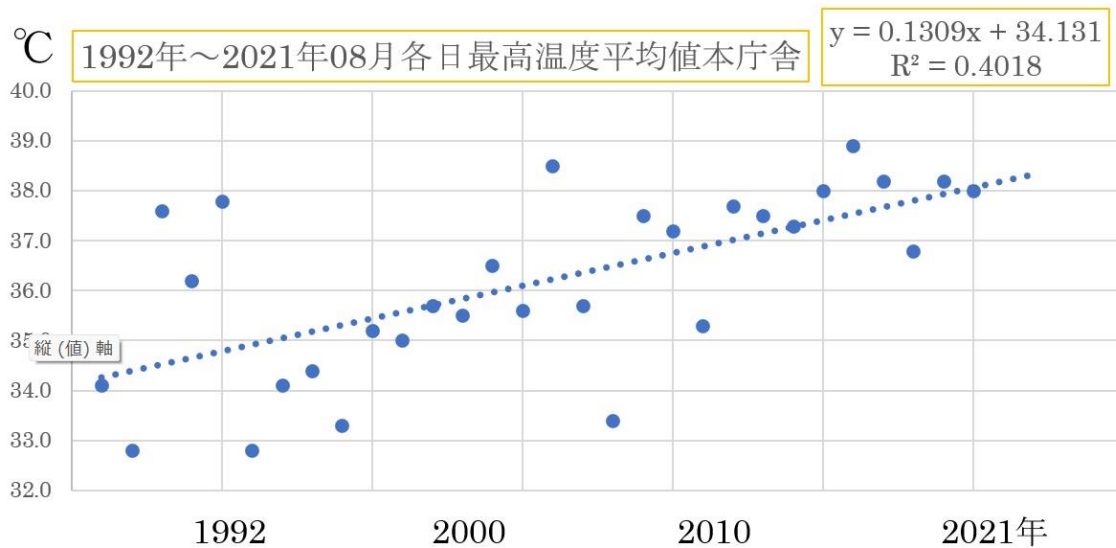
新宿区測定局測定値(温度)解析

はじめに：新宿区の気温変化を理解することは有意義であり、今回、本庁舎のそれを解析しました。

目的：測定値(温度)の経過の特徴を明らかにすることを目的とします。

材料：新宿区役所測定局資料(1992年04月～2022年03月)のうち本庁舎毎日毎時温度測定値月平均値

方法：Excel 近似曲線を以て同月の温度(最高、最低、平均)と年の相関を30年間を通して解析しました。



結果：・年とともに温度上昇傾向がありました。

- ・温度と年に緩やかな正相関があり、負の相関はありませんでした。
- ・外れ値：1996年08月05・14日22、23、24時の最低温度は0℃でした。
1996年08月07・15日01～09時の最低温度は0℃でした。

考察：・約30年間の毎時検温記録は貴重でした。

- ・パラメータの設定が重要でした。
- ・検温環境、操作法を確認する必要があります。
- ・1996年に多発する外れ値について、影響がある場合の対策として、パラメータを平均値から中央値に置換する可能性を検討する必要があります。
- ・降水量を温度解析要因に含むことを試行することが必要です。
- ・統計専門ソフトによる再検証、解析熟練者による再検証が必要です。

結論：・約30年間の毎日毎時検温の結果、本庁舎の気温は経年上昇していました。

	温度											
	本庁舎											
	平均				最高				最低			
	近似曲線		相関		近似曲線		相関		近似曲線		相関	
	数式	R-2乗値	相関係数	相関	数式	R-2乗値	相関係数	相関	数式	R-2乗値	相関係数	相関
01月	$y=0.0423x-78.787$	0.1526	0.391	正：低い	$y=0.0349x-54.597$	0.0215	0.147	無相関	$y=0.0304x-61.448$	0.0539	0.232	正：低い
02月	$y=0.055x-103.73$	0.1624	0.403	正：低い	$y=0.084x-150.15$	0.0658	0.257	正：低い	$y=0.0386x-77.617$	0.0984	0.314	正：低い
03月	$y=0.1212x-233.45$	0.5090	0.713	正：高い	$y=0.099x-161.27$	0.1567	0.396	正：低い	$y=0.072x-142.79$	0.2913	0.540	正：中位
04月	$y=0.00526x-90.813$	0.1347	0.367	正：低い	$y=0.0311x-36.746$	0.0229	0.151	無相関	$y=0.0602x-115.86$	0.0739	0.272	正：低い
05月	$y=0.1188x-218.9$	0.6454	0.803	正：高い	$y=0.1064x-184.17$	0.2476	0.498	正：中位	$y=0.0944x-178.57$	0.2347	0.484	正：中位
06月	$y=0.0986x-175.24$	0.4709	0.686	正：高い	$y=0.0791x-126.93$	0.1292	0.359	正：高い	$y=0.1608x-307.02$	0.1815	0.426	正：中位
07月	$y=0.00809x-135.8$	0.1633	0.404	正：低い	$y=0.0702x-105.63$	0.1385	0.372	正：低い	$y=0.0708x-123.01$	0.1173	0.343	正：低い
08月	$y=0.1132x-199.45$	0.3841	0.620	正：高い	$y=0.1309x-226.49$	0.4018	0.634	正：高い	$y=0.2592x-499.76$	0.1802	0.425	正：中位
09月	$y=0.0814x-139.28$	0.2461	0.496	正：低い	$y=0.0632x-93.088$	0.0857	0.293	正：低い	$y=0.0921x-168.93$	0.203	0.451	正：中位
10月	$y=0.0746x-130.97$	0.3699	0.608	正：高い	$y=0.1474x-266.93$	0.3209	0.566	正：低い	$y=0.0968x-183.37$	0.2581	0.508	正：中位
11月	$y=0.0684x-123.76$	0.2950	0.543	正：低い	$y=0.0335x-44.487$	0.0421	0.205	正：低い	$y=0.0193x-33.414$	0.0136	0.117	無相関
12月	$y=0.0352x-62.071$	0.3070	0.307	正：低い	$y=0.0767x-0.0651$	0.1567	0.255	正：低い	$y=0.0335x-65.619$	0.072	0.268	正：低い

活動の総括

(1) [練馬区立牧野記念庭園見学]

年月日：令和5年4月29日（土） 場所：練馬区東大泉6-34-4

面積：2576.22 m²約779坪（NHK朝ドラらんまん情報2000坪。2.56倍）

＜感じた事＞

◇環境にやさしい庭園であり、環境活動の参考になります。

◇博士がこの地に来たときは静かな雑木林であったと思われます。

◇みどりは人が手を掛ければ長い間継続します。

◇消防署前でうろうろしていたら署員が出て来てくれ、牧野庭園行のまちづくりの案内をしてもらいました。

＜無料庭園案内＞博士言葉《石碑文》

*世の中に雑草という名の花はない

*花あればこそ吾もあり

*僕が市長だったら桜でうめつくす

*楽しさや 押し葉を庭の 木で作り（俳句）

＜庭内博士命名樹木草花＞

*庭園左手に「スエコザサ」、*奥にサクラ「センダイヤザクラ」

*練馬区の名木として「ヘラノキ」「センダイヤザクラ」*他「カタクリ・キンモクセイ・ヒトツバヒイラギ・ウバユリ」*他10点*各種サクラ10点

*バイカオウレン・チャルメラソウ・ムジナモ等の草花苗を現在でも植栽して皆さんに配布して地域に広げている。

(2) [みどり豊かな落合公園サポート活動] サポート辞退に当たり

*ふじ（藤）の棚を西部公園事務所で製作いただき感謝します。公園植栽がきれいに花が咲くように継続的に推進願います。

*活動最後の思い出に「つつじ・藤」の写真を撮影し、新宿エコライフまつりに展示した「つつじマップ」にも掲載しました。

*樹木の枝を剪定、見守りをしたりしています。

*9年前新宿区に寄附した「禅寺丸柿苗」が太くなりました。花が咲き、実がなるのを楽しみにしたいと思います。

(3) [新宿エコライフまつり]

開催年月日：令和5年6月3日（土）（10：00～15：00）

令和5年6月の、「環境月間」に合わせて実行されたイベントで、環境への取組を普及・啓発するため、また、CO₂排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ新宿」を実現す

るため、4年ぶりに通常開催されました。

初出展6団体を含め計29団体が参加、参加者数178名でした。

環境活動に関するパネル展示・CO₂排出削減の実践について活動、他工作・編み物・エコな染色など体験コーナー、パン・果実販売、トークイベントに参加して楽しく過ごしました。

＊みどり・生き物分科会は事業体験、押し花：はがき、葉のワークショップで時間最後まで、子供大人と賑やかでした。また、今期取り組んだつつじについて、会員が写真撮影したものを提供し、事務局がパネル化してまつりに展示しました。12月開催の【まちな先生見本市！】にもパネル展示をしました。

（4）SDGs〔持続可能な開発目標〕

日本はエネルギー供給が困難な国、再エネ革命ニッポンの挑戦です。

国内の経済が活発になり、国際的にも活動して欲しいと思います。

テレビの番組を見て、日本の未来が期待できそうです。

令和5年9月24日 テレビ朝日にて放送（13：55～15：20）SDGs スペシャル

＜風 力＞「社長発想」青森海岸設置稼働中

＜地 熱＞「社長発想」設置・稼働中・二世世代に継続・掘削学行設立

＜太陽光発電＞「教授発想」1兆円経済・発電機をフィルムを軽く曲げて出来る。
雨の日・曇りの日でもOK。

＜太陽光発電＞「工業会社発想」フィルム2023年実用。ロールテールフィルム。発電使用。日本は材料を作りながら出来る。

＜エネルギー蓄電池＞「社長発想」軽量、使いよい。自動化パワーX。

＜電池運搬船＞「社長発想」船を日本で製造、海外に輸出。

＊重要な事はスピーディ活動の展開と国の支援であると考えます。

～落合公園のつつじ・藤～



節度と慎みのあるまち新宿 [つつじの里]

第10期(R4,5年度)は第9期(R2,3年度)の自然とのつながりに引き続き、みどり・生き物分科会として、「新宿区第三次環境基本計画(改定)」(令和5年2月改定。以下「第三次環境基本計画(改定)」と言う。)に掲げる「ゼロカーボンシティ新宿」と「環境にやさしいまちづくり活動」の一端として取り組んでまいりました。

1. つつじマップ作成

今回の活動としては、つつじが新宿区の花である事から、現状の新宿区全体のつつじの植生状況を写真撮影して、つつじマップを作成することを目標にスタートしました。

1. 1 みどり保全と創出に関する取組

まずは区の「第三次環境基本計画(改定)」に基づく区のみどり保全と創出に関する取組に関し、みどり公園課よりお話を聴きました。現状の緑化状況及び今後の取組などに関して詳細に把握する事が出来ました。新宿区の緑比率(人の目に見えるみどりの割合)をR9年度20%目標に公共施設や民有地での緑化の指導や生物多様性に配慮したみどりづくりなどを推進して、みどりの創出・拡充に取り組んでいます。

指標 公園面積の目標 H30年 117.2ha R9年度 119.2Ha

緑比率の目標 18.2% 20%

1. 2 大久保つつじの歴史を学ぶ

歴史博物館館長より江戸～明治～現代にわたる大久保つつじ、大久保の歴史を学びました。明治20年～30年は最盛期でまち全体がつつじの里の趣であった。そのようなつつじの里新宿を再生し、花言葉にある初恋や恋の喜びあふれる、節度と慎みあるまち新宿としたいものです。



2. つつじマップ写真撮影

2. 1 つつじの探索

つつじ撮影に当たって、つつじの探索としておとめ山公園や百人町ポケットパークに足を運んでのつつじ観察が行なわれましたが、都合により参加できなかったのは残念でした。



2. 2 柏木地区つつじ撮影



撮影時期がつつじの最盛期とずれたため、思うような写真が撮れませんでした。とりあえず担当の柏木地区の写真撮影に奔走し、道路脇のサツキの写真を撮りました。その中の数枚を「柏木地区つつじマップ」としてここに掲載します。



- ①神代植物公園
- ②平成つつじ公園
- ③旧古川庭園
- ④六義園
- ⑤芝離宮恩賜公園
- ⑥新宿御苑
- ⑦皇居東御苑



2. 3 活動を通じて思ったこと感じたこと 地域にどの様にして広げられるか？

新宿区のまち全体をつつじのまちとして広めるための方策として、まずは区全体にわたっての写真撮影を行ったが、時期的な問題などで開花時期を過ぎてしまい、良い写真が撮れませんでした。今後東京都つつじ7選のように写真撮影した中から新宿区つつじ7選として、区民の皆さんに広く新宿のつつじを周知する事で、緑豊かな節度と慎みある新宿のまち創生の一端としてはとを考えます。

3. 「ゼロカーボンシティ新宿」の実現に向けて

3. 1 施設見学会

① ダスキン横浜中央工場見学

ダスキンレンタルを基本とした循環型事業展開、廃棄物削減、省資源といった環境保全に関する取組を見学致しました。ダスキンモップやシートマットなどを劣悪な環境下で水リサイクルによる清掃、再生化する姿に感心しました。今後仕上げ工程の更なる自動化に取り組むとのことでした。

② 横浜市鶴見工場見学

3Rごみ処理・燃やしたごみによる発電・分別によるCO₂削減などに取り組んでおり、発電の8,700万kw/年は自家利用に加え下水処理場へ送電しています。家庭や事業所からのごみ処理の特殊大型クレーン稼働は圧巻でした。ごみの減量とリサイクルの推進を強く感じました。



3. 2 自分たちが出来ること

今期の活動を生かして、3Rによる資源を無駄にしない循環型社会の実現に取り組みます。10年にわたってCO₂削減の下支えとなったエコ隊登録メンバー約5,000人との連携協力や未来を担う子ども達と一緒に環境学習や環境教育に協力することで、「ゼロカーボンシティ新宿」の普及啓発に協力して行きます。

新宿区の花であるつつじを広範囲に周知しながら、自然と親しみ、植生を通じての命の大切さや環境循環への配慮を体験し学ぶ機会を作って行ければと思います。

第10期において取り組んできたこと

1. エコライフ推進員として2年目を迎えました。

個人的に取り組んできたことは前年と同じく、1. 廃棄衣類を出さない、2. 頂き物など自分にとって不要なものを必要としている人にお届けする、この2点です。

廃棄衣類を出さないために利用したのは、三つの団体です。

A. 新宿区リサイクルセンター(高田馬場)

ここにあるもいちど倶楽部は、区民であればだれでも登録でき、およそ年に3回ほど、自分の不用品を自分で値付けをし、会場に出品します。一回につき15点まで出品できますが、衣料品に関しては一回当たり5点までという決まりがあります。今年は、2月、5月、9月と3回出品し、14点を必要な人にお譲りできました。

B. 中野区清掃事務所リサイクル展示室

こちらには、着るには流行おくれだったり、ボタンがとれていたり、また汚れがあったりするもの、つまり古布扱いの物を2、3回、それぞれ大き目の紙袋に一袋ずつ持ち込みました。週に4回ほど持ち込める時間帯があり、とても利用しやすいと思っています。

これらの古布に関しては、中野区には集団回収があり、その上、先述のリサイクル展示室に服や古布を持ち込むシステムがある一方で、なぜ新宿区では、古着古布とも、特に意識しない人には燃やすごみとして捨てる、が通常の手段であり続けているのか、何年も前から不思議に思い、お尋ねし続けている問題です。未だ明確なお答えをいただいておりません。

C. H&M 新宿店

新宿区明治通り沿いにあるH&Mの一階レジ横には、古着回収ボックスが設置してあります。多少のシミがあろうがなかろうが、他ブランドの物であろうが、ただ適当な袋に入れて持ち込むだけです。H&Mで買い物する予定の人であれば、アプリを入れておけば買い物に利用できるポイントをもらえます。簡便です。この店舗のリサイクルボックスも2回ほど利用しました。

以上の三システムを合わせると、普通サイズの段ボールに3箱は十分あり、資源になるうる物の無駄な焼却を減らせたと思っています。

頂き物等は同じく新宿区もいちど倶楽部にて30点、ウェブのアプリ経由で少し高級なものも含め15点程、計45点程を必要としてくれる人にお譲りできました。

2. 今年度は、イベントに2回出席し、ゼロカーボンシティに向けてごみ減量とリサイクルを考える分科会の出展ブースの説明等手伝うことができました。6月のイベントでは、訪問者が少なく、特に展示に興味を持ってくれる人も少なく残念でした。小学生のお子さんを連れたご家族が数組、お子さんの環境問題への啓発のため、あるいは学校で

の課題の助けとするため、熱心に質問してくれたのが、救いでした。環境に対する意識づけは、家庭のみならず、学校の生活に関する授業等で扱ってもらおうと、若いうちから当然のように、環境を守る精神が育つと確信しています。

10月のイベントは、新宿西口で大掛かりなものでした。これについての反省は、先日
の分科会でもお話ししましたが、繰り返します。

パネルがいくら良く出きても、文字と写真だけで人を引き寄せることはできにくいと感じます。一部でも実践中の実物があると、全く人の反応は違います。豆苗や、カイワレの根元の部分を水耕栽培、または土に植えて発芽させたもの、アボカドの種を土に植えて、発芽、成長したものなどを展示する必要があったかと思います。スタンプラリーでせつかく当ブースまで足を運んでくれた人を、引き留め、関心を持ってもらうきっかけがなく、じれったく思いました。

同時に、場所とパネルの設定の件については、当分科会のブースが一番端で、駅に近い方を正面とすると、全くの裏正面でした。正面から入ってきた人には、何か展示物があることさえ認識できないパネルの向きでした。せめて斜めに方向転換し、正面からも多少なりとも認識でき、かつ裏正面に背を向けられない位置取りができなかったのかと悔やまれます。

3. ゼロカーボンシティに向けてできることとして、まずは燃やすのが原則になっている古着、古布問題を行政のほうで考えてほしいと思います。また、個人としては、マンション住まいですが、ごみの出し方がルールを弁えていない人に対し、啓蒙啓発を続けていきたいと思います。オーナーマンションですが、一部に賃貸の入居者がいるようで、その場しのぎでルール無視、しかしながら、個人情報という曖昧な一言で、個人を特定できていながらも、直接の注意はプライバシー侵害だとか、なかなか難しいところです。

エコライフを地域や多くの人に広めるには

エコライフ推進員の活動を通じて感じたことは、エコライフを地域や社会全体に浸透させるためには、地域全体が協力し、より多くの人が活動に参加し、活動を継続していくことが大切だということです。

そのためには、地域構成員たちのコミュニティに入ることがポイントだと思います。特に私のような外国人には、地域の方の集まりに入ることは簡単ではありません。コミュニティからの情報の不在、文化の差、言語、年齢、関心度、ライフスタイル等、様々なハードルがあるためです。

エコライフの活動も、当初は学ぼうとしても聞ける機会がなかったです。日常生活の簡単なゴミの分別に関しても今まで誰かにきちんと教わったことがなかったです。役所からマンションに配布されるポスターや冊子がありますが、それをきちんと説明して、指導してくれる人は今までいなかったです。

しかし、地域の仲間に入れば指導も出来るし、協力も受けられると思います。エコライフ推進員の活動のきっかけとなった活動を紹介したいのが、自分が入っている北新宿4丁目の公園サポート会です。公園近くに住んでいるリーダーの方がいて、そのリーダーを中心に地域の日本人10名、外国人3名が活動しています。年2、3回、区から配られるお花の移植作業や雑草取り等を行うボランティア活動で、リーダーを中心に地域の方と交流しています。

リーダーの紹介でエコライフ活動のみどりのカーテン（ゴーヤ植え育ち）に参加し、それがきっかけでもっと地域のために微力でも何かの活動に参加してみたい気持ちになり、エコライフ推進員として活動したくなりました。

地域の構成員として活動するためには、エコライフ推進員の活動に参加するのがいいと思います。リーダーを通して情報を得る、活動方法を教えて頂く、微力でも一緒に地域を綺麗にしていくと考えたら、集まること自体が楽しいし、やりがいも感じ積極的に参加し、活動をやってみたくなるはずです。交流し始めたら、文化の差も言葉の壁も問題ではないです。エコライフ推進員への参加が日常生活の中で地域社会に入る一歩になると信じます。外国人だから、お互いに文化が違うからということではなく、自然に日常生活の中でエコライフを通じて地域社会に参加する出発点、再スタートになるきっかけになると信じています。今まで理解できなかったことも理解できるし、外国人だからできないという差別的な見解もなくなると思います。年何回か活動に参加しただけでは地域社会のコミュニティに入ることも作ることも簡単にはできないでしょう。しかし、参加した方、交流に入った方とSNSを利用すればすぐ友達になることができますし、SNSを通して日常の情報を得ることもできます。交流すれば親近感が一気に広がります。わからなかったり、情報がない場合参加が難しいかもしれませんが、一度仲間に入ってしまうえば情報が受けられますし、指導も協力も受けられます。文化の差も理解でき

ます。新宿区は特に在留外国人が多く全国でも1-2位です。外国人は急速に増加し、4万人を超え区民の1割以上が外国人です。行政から積極的に外国人を区民のコミュニティに入ってもらふことは、外国人と共生する豊かなまちづくりを目指す上で大事なことです。

余力あつてやればいいという段階は超えています。外国人とのコミュニティ作りは多文化共生に必要なことです。外国人が地域コミュニティに参加することこそ、共生することですし、豊かなまちづくりの大事な政策だと思います。その大事な政策の一步はエコライフ推進員に参加してもらふことだと思います。また、参加してもらふ場合も、日常の生活の範囲で参加してもらえばいいと思います。公園の花植え、草取り、ゴミ拾いに参加することもそうです。誰か賛同する日本人リーダーが立って声を掛ければ外国人や若者は集まりますし、日本語学校のコミュニティ作りのためにもいい政策だと思います。みな参加したいと思っています。新宿区は全国でも日本語学校が多いところです。区の行政から互いの文化を学び、知るきっかけにもなると思います。環境に関する勉強会を定期的実施することもいいと思います。地域の外国人コミュニティにエコライフ活動が積極的に受け入れられる事を願いながら微力でも参加していきたいです。

エコライフ推進員の活動を通じて感じたこと エコライフを地域や多くの人にどの様にしたら広めて行けるのか

私は、今回初めてエコライフ推進員として活動させて頂き、今まで知らなかった数多くの事を学ぶ事が出来ました。大変嬉しく良かったと思いました。

「ゼロカーボンシティ新宿」の実現に向けて、地球温暖化を引き起こす二酸化炭素を減らすために、世界中で「脱炭素化」や SDGs（持続可能な開発目標）17 項目についての取組が広がっている事、それは、このまま何もしないでいると地球が持たなくなってしまうからだと言う事です。

温暖化対策は個人では、一度にたくさん出来ないため、自分に出来る事から取り組んでいきたいとの事です。

区は、区民と事業者などが一体となって連携・協力しながら、2050 年までに区の CO₂ 排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組む事を広く表明しました。

令和3年9月に環境省が作成した「ゼロカーボンアクション 30」は、とても分かりやすく、詳細に記入されており、大変勉強になりました。

私は、新宿エコライフまつり、3R推進キャンペーンに参加させて頂きました。

新宿エコライフまつりでも、3R推進キャンペーンでも、多くの人に活動の内容を広めて行くことが、どれだけ大切であるか良く分かりました。

推進員になってから、更に気を引き締めてゴミの分別に力を入れ、生ゴミは新聞紙に入れて水分を切ってから捨てる。食事は残さない。買い物は買い過ぎない。食品ロス削減のため見切り商品を活用する。マイバッグ、マイボトルを使う。節電、節水をする。自分に出来る事から進めています。

お弁当のプラスチック容器を、楽しく洗えるよう歯ブラシに毛糸をタワシ風に編んで取り付け、エコタワシを作りました。溝の所も洗い易くなり、楽しく分別して捨てる事が出来ました。油の汚れのひどい時は、使い終わったペーパータオルなどを使い、拭き取ってから洗うようにしています。

洋服も以前より買う事が少なくなり、大切に着ています。

私が一番ショックを受けたのは、便利だったプラスチックが、海中に捨てられると有害物質になってしまうという事です。プラスチックは、海中に捨てられると波や紫外線により分解され、「マイクロプラスチック」化し、ゴンドウクジラや海鳥が誤って飲み込んでしまうということが起きています。レジ袋やペットボトルの削減、簡易包装、詰替容器の選択をして、海洋ごみを出さないように努めて参ります。

エコライフ推進員として

今期も小さな活動（自分にできること）を実践いたしました。家の前の公園サポーターとして、年に2回、区から用意される花植えの作業を、サポーターの皆さんと日時を決めて作業を行います。夏の水やりは、思いの外大仕事ですが、美しい花の咲く時は、とてもやりがいを感じます。また、公園の周りや外側の除草も行う時もあります。こばと児童遊園の中には大樹のイチョウの木が5本も植えてあり、落葉の時期は毎日のように掃除も行います。区から委託の方も週に2回ほど来て、大変ありがたいです。このように、私は、常に地域緑化、温暖化対策のために活動し続けています。ひとつ困った事は、公園外でのタバコのポイ捨て！です。みどり公園課にも相談し、ステッカーなど取り付けして頂いても効果が薄く残念な現状です。秋から冬に枯れ葉が山程。火の始末が心配ですが、私たちのできる事は、ポイ捨ての場所には花を植えないことにしました。分科会では、ごみ削減、食品ロス、衣料再利用について、家では、自分のできる範囲で節電を実行することであると考えています。また、今期は、エコライフ推進員の一員として加えて頂き、活動イベントに参加いたしました。○新宿エコライフまつり（ごみ削減パネル3枚展示）○3R推進キャンペーン○施設見学会（ダスキン横浜中央工場・横浜市鶴見工場）ダスキン見学では循環型ビジネス展開、廃棄物削減、省資源化、環境保全に努めていることを知り、その大切さを学びました。

3R推進キャンペーン

（自分ごと）から（みんなごと）

新宿から創る、地球の未来

SDGs17の目標にはまだまだ達成がむずかしいと思いますが、活動し続け進めていくことが大切だと考えます。

家庭ごみ、節電、衣類、食べ物を残さない、ごみ袋NO、マイバッグ利用のこと。
森林の保全や育成管理（緑）豊かさを守ることが大切だと思います。明治神宮辺りの伐採後は気になりますが、その頃は？

エコライフ推進員の活動を通じて感じたこと

第 10 期エコライフ推進員「みどり・生き物分科会」では、新宿区の花である“つつじ”の植えられている実態を調べる事や区民に知ってもらふ事などを目標として、委員各々が地域の区立公園や近隣などを廻って植えられている場所の写真を撮り、その成果としてマップを作成しました。

樹木は二酸化炭素を吸収してくれるありがたい存在です。一説によると大まかな計算ですが、地球上の全ての樹木を世界人口一人あたりに割り振ると約 60 本といわれています。家庭で排出する二酸化炭素を木でまかなうには、一人当たり 180 本が必要です。100 本以上も木が足りないということになります。街や職場、産業活動での排出分もあわせれば気（木）が遠くなる数字です!!

解決策の一つとして植樹プロジェクトが世界で広がっています。手遅れだとか、いずれ植える土地が不足するなど否定的な見方もありますが、それでもできることはやったほうがいいと思います。寄付金を払えばプロジェクトに参加できますし、森林ボランティアもあります。身近なこととして草花を育てるのも良いと思います。小さな植物にも、光合成による二酸化炭素の吸収と酸素の排出そして蒸散作用があります。また、植物の存在は、森林浴や草花を愛でることなどで疲労回復やストレス緩和、心の健康にも大いに効果があるといわれています。

さあ、現在そして未来のためにも、皆で草木を育てよう!!

新宿区エコライフ推進員の活動に関する要綱

平成 28 年 3 月 1 日

(目 的)

第 1 条 この要綱は、新宿区環境基本条例（平成 8 年新宿区条例第 13 号）第 23 条で定める新宿区エコライフ推進員（以下、「推進員」という）について、必要な事項を定めることを目的とする。

(活 動)

第 2 条 推進員は、今日の環境問題の多くが日常生活や事業活動と密接な関係にあることを認識し、環境の保全、環境への負荷の低減等に配慮した暮らしを実践するとともに、新宿区立環境学習情報センターと連携及び協働を図り、その活動を地域に広げていくことを目的として、次の活動を行う。

- (1) エコライフの実践に関すること。
- (2) エコライフの普及啓発活動に関すること。
- (3) 前各号のほか、エコライフの推進に関すること。

(構 成)

第 3 条 推進員は 40 人程度とし、地域推薦及び公募によるものとする。二 応募者が、第一項の人数を著しく超えた場合は、公募による応募者の中から選考会によって推進員を決定する。選考員は、環境清掃部長、環境清掃部環境対策課長、環境清掃部ごみ減量リサイクル課長の 3 名とする。

(委 嘱)

第 4 条 推進員は、次の要件を満たす者に対し、区長が委嘱する。

- (1) 区内に在住、在勤又は、在学すること。
- (2) 18 歳以上であること。
- (3) 第 2 条に掲げる活動を遂行できること。

二 前項の要件を欠いた場合、区長は委嘱を取り消すことができる。

(任 期)

第 5 条 推進員の任期は 2 年とする。ただし、区長が特に必要と認めた場合は、別途任期を定めることができる。

(活動謝礼)

第 6 条 推進員には、活動謝礼を支払うものとする。

二 活動謝礼の支払いに関する詳細は、別途基準を定める。

(協議会)

第 7 条 推進員の活動等を円滑に推進するため、推進員によって構成される新宿区エコライフ推進協議会を置く。

(守秘義務)

第 8 条 委員は、活動において知り得た個人のプライバシーについて、第三者に漏らしてはならない。

(庶 務)

第 9 条 推進員及び協議会の庶務は、環境清掃部環境対策課が担当する。

(補 則)

第 10 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 18 年 4 月 1 日）

この要綱は、平成 18 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 20 年 4 月 1 日）

この要綱は、平成 20 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 23 年 7 月 1 日）

この要綱は、平成 23 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 4 月 1 日）

この要綱は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 4 月 1 日）

この要綱は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 3 月 1 日）

この要綱は、平成 28 年 3 月 1 日から施行する。

新宿区エコライフ推進協議会運営要領

平成 22 年 4 月 1 日

(目 的)

第 1 条 新宿区エコライフ推進員の活動に関する要綱(平成 16 年 4 月 1 日付 16 新環環環第 26 号、以下「要綱」という。)第 7 条に規定する新宿区エコライフ推進協議会(以下、「協議会」という。)について、必要な事項を定めることを目的とする。

(運 営)

第 2 条 協議会は、新宿区エコライフ推進員(以下、「推進員」という。)が自主的に運営するものとする。

(協 力)

第 3 条 推進員は、協同、協力し合い、要綱第 2 条に定める活動を行う。

(会長等)

第 4 条 協議会に会長及び副会長を置く。

- (1) 会長及び副会長は、推進員の互選により定める。
- (2) 会長は、協議会を積極的に運営し、副会長はこれを補佐する。
- (3) 協議会の招集は、会長が行うものとする。ただし、会長に事故があるときは、副会長がその職務を代理する。
- (4) 協議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

(分科会)

第 5 条 第 3 条に掲げるエコライフ活動を効率的に行うため、区と協議会が協働で取り組む課題ごとに分科会を置くこととする。

- (1) 環境保全、温暖化対策、ごみの減量とリサイクル推進等を課題とする分科会を置くこととし、区及び協議会の協議により決定する。
- (2) 分科会に、推進員の互選による責任者を置く。
- (3) 分科会活動には、推進員の総意により推進員以外の者も参加することができる。

附 則

この要領は、平成 16 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 18 年 4 月 20 日)

この要領は、平成 18 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 4 月 1 日)

この要領は、平成 20 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 22 年 4 月 1 日)

この要領は、平成 22 年 7 月 1 日から施行する。

第10期新宿区エコライフ推進員名簿

令和6年2月末日 現在

番号	氏 名	ふりがな	地域
1	名簿は公開しません		
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

第 10 期新宿区エコライフ推進員活動報告書

令和 6 年 3 月発行

編集・発行：新宿区エコライフ推進協議会 活動報告書編集委員会

事務局：新宿区環境清掃部環境対策課環境計画係

〒160-8484 新宿区歌舞伎町一丁目 4 番 1 号

TEL (03) 5273-3763 FAX (03) 5273-4070

E-mail : kankyo@city.shinjuku.lg.jp

この冊子は、地球環境保全推進のため再生紙を使用しています。